

# 平成27年度仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査の 分析結果と指導改善の方策がまとまりました

今年4月に実施した「仙台市標準学力検査<sup>※1</sup>」と「仙台市生活・学習状況調査<sup>※2</sup>」の調査結果を6月に発表しましたが、このたび「仙台市確かな学力研修委員会<sup>※3</sup>」による分析結果とそれを基にした指導改善の方策がまとまりましたので公表します。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立てていきます。

## 1 仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策

- (1) 分析結果から、仙台市の子どもの学力の傾向をまとめました（資料1）。
- (2) 目標値を特に上回った部分を成果、下回った部分を課題としてまとめました（資料2）。
- (3) 指導改善の方策について  
目標値を下回った内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました（資料3）。
- (4) 今後の取り組みについて  
分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かしてまいります。また、小学校4教科、中学校5教科において指導改善の方策を踏まえた公開授業を実施いたします。

## 2 仙台市生活・学習状況調査分析結果と指導改善の方策（資料4）

- (1) 分析結果について
  - ① 震災前と比較し、将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている児童生徒が増加しています。
  - ② 地域の行事に参加している児童生徒が増加しています。
  - ③ 学年が上がるにつれて、宿題があったことを忘れてやらないことのある児童生徒が増加しています。
  - ④ 学年が上がるにつれて、携帯電話・スマートフォンの所持率が上がり、使用時間も長くなっています。
- (2) 指導改善の方策について  
課題のあった内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。
- (3) 今後の取り組みについて  
分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かしてまいります。また、教育委員会でも広報に努めるとともに、東北大学と共同でさらに分析を進めてまいります。

### ※1 仙台市標準学力検査

児童生徒の学力の現状や課題を把握するため、小学校3年生以上を対象に、前学年で学習した内容（小学校3年生：国語、算数 小学校4年生～中学校1年生：国語、社会、算数・数学、理科 中学校2年生、3年生：国語、社会、算数・数学、理科、英語）について、毎年4月に検査しています。

### ※2 仙台市生活・学習状況調査

児童生徒の生活習慣や学習状況を把握・分析するため、小学校2年生以上を対象に「学習意欲」や「道徳心・挑戦・夢」なども加えて、標準学力検査と同時に調査しています。

### ※3 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭、指導主事を委員とし、仙台市標準学力検査及び仙台市生活・学習状況調査結果の分析および授業改善の方策の検討を行っています。

## 仙台市の子どもたちの学力の傾向

平成27年度仙台市標準学力検査結果の「観点別、内容別、問題別の平均正答率」と「目標値」との比較から見えてくる、仙台市の子どもたちの学力の傾向をまとめました。

小学校	国語	○「話す・聞く能力」の中では、話の内容を聞き取る設問において正答率が高かった。 ▼中学年は、条件に合わせて「書く能力」や、物語文や説明文を「読む能力」において課題が見られた。
	社会	○資料を基に考察し、その内容を表現する「思考・判断」「表現」などの応用力が高かった。 ▼地図記号や方位、等高線の知識の定着が不十分で、地図の読み取りが苦手など「観察・資料活用の技能」に課題が見られた。
	算数	○基本的な四則計算の技能が定着している状況が見られた。 ▼求め方や答えを、式と言葉で説明する「数学的な表現」に課題が見られた。
	理科	○観察や実験結果から事象を説明する「科学的な思考・表現」が高かった。 ▼顕微鏡の正しい使い方や、太陽と影の動きに方位を関連付けて観察するなど、「観察・実験の技能」に課題が見られた。
中学校	国語	○「話す・聞く能力」、作文などを「書く能力」がいずれの学年においても高い傾向が見られた。 ▼漢字を書くことや、説明文などの内容を読み取ることに課題が見られた。
	社会	○資料を基に考察し、その内容を表現する「思考・判断」「表現」などの応用力が高かった。 ▼時代ごとに盛んとなった文化や学問について、特色をとらえることに課題が見られた。
	数学	○平面図形を作図する「数学的な技能」や図形の合同を証明する「数学的な見方や考え方」が身に付いている状況が見られた。 ▼求め方や答えを、式と言葉で説明する「数学的な表現」に課題が見られた。
	理科	○動物のからだのつくりや、身の回りの物質の性質などについて説明する「表現」の力が見られた。 ▼「仮説を確かめるために必要な実験」を考えることに課題が見られた。
	英語	○さまざまな英文を読み取る「外国語理解の能力」や、場面に応じて英作文する「外国語表現の能力」が高かった。 ○ヒアリングでは、英文の聞き取り、要点を理解することができた。 ▼疑問文を中心に、文法の知識の定着に課題が見られた。

平成27年度仙台市標準学力検査分析結果（成果と課題）

分析の結果、目標値を特に上回った部分を成果、下回った部分を課題としてまとめました。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
小学校3年	国語	① 話の内容を聞き取る こと。	① 説明文の内容を叙述に即 して読み取ること。	⇒ 大事な言葉を囲んだり、線を引かせたり、 ノートに抜き出して書かせたりする指導を行 う。
		② 漢字を読み書きする こと。	② 経験や想像したことの中 から書くことを決め、作文す ること。	⇒ 何を書けばよいのかをノートに箇条書きさ せ、中心となる事柄を選ばせる指導を行う。
	算数	① この辺や面の特徴を とらえること。	① 文章や図を理解し、乗法を 用いた式で表すこと。	⇒ 個数を数える方法を様々なかけ算の式で表 させたり、図などで表現させたりする指導を 行う。
		② 大きな数の決まりを理 解すること。	② グラフから数を読み取り、 指定した項目との数の違い を求めること。	⇒ 「分かっていること」「問われていること」 に下線を引かせ、問題を正しく読み取らせる 指導を行う。
		③ 足し算、引き算、かけ 算を行うこと。		
	小学校4年	国語	① 話合いの内容を聞き 取ること。	① 物語文の内容を読み取る こと。
② 漢字を読むこと。			② 相手や目的を意識し、条件 に合わせて作文すること。	⇒ 条件を与えて文章を書かせたり、書きたい ことを順序立てて整理させたりする指導を行 う。
社会		① 工場の仕事について 理解すること。	① 地図記号から土地の様子 を読み取ること。	⇒ 地図記号や地図上の凡例の基となる写真資 料などを活用し、具体的なイメージを持たせ ながら指導を行う。
			② 文章資料から、昔の様子を 読み取ること。	⇒ 文章資料を与える際には、読み取る視点を 提示し、必要な情報を集めさせる指導を行 う。
算数		① 四則計算を行うこと。	① 繰り上がりのある足し算 を計算すること。	⇒ 一つ一つの繰り上がりの数を確実に書か せ、位をそろえて計算させる指導を行う。
		② 地図から2つの道のり を読み取り、その合計の 大小を比較すること。	② 文章問題を□を使った式 に表して解くこと。	⇒ 式から図をかき、図を言葉で説明させるこ とで、「言葉」「図」「式」を相互に関連さ せながら指導を行う。
		③ 小数の仕組みを理解す ること。	③ 三位数×一位数の計算の 仕方を説明すること。	⇒ 考えを書かせてから発表させたり、数値が 異なる場合でも同様にできるか考えさせたり する指導を行う。
理科		① モンシロチョウの育ち かたを理解すること。	① 太陽とかげの関係に方位 を関連付けて、太陽の1日の 動きをとらえること。	⇒ 太陽と影の観察とともに、懐中電灯などを 用いて影のでき方をつかませるモデル実験に よる指導を行う。
		② 物は、形が変わっても 全体の量が変わらないけ れば、重さは変わらないこ とを理解すること。	② 電気の性質と磁石の性質 を区別すること。	⇒ 磁石に付く物を探す活動をさせる際、電気 を通す物と通さない物を比較させながら指導 を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
小学校5年	国語	① 漢字を読むこと。	① 説明文において、段落の役割を理解し文章の内容を的確に読み取ること。	⇒ 繰り返し出てくる大事な言葉を押さえさせながら段落が説明している内容を的確に読み取らせる指導を行う。
		② 物語の内容を読み取ること。	② 目的や必要に応じて「自分の考え」と「出来事」を区別して作文すること。	⇒ 「自分の考え」と「出来事（事実）」を色別の付箋紙やカードなどに区別して書かせる指導を行う。
	社会	① 火事が発生した時の消防署の役割を理解すること。	① 交通事故が発生した際の警察官の仕事を理解すること。	⇒ 警察の仕事について、見学活動や具体的資料を活用しながら調べさせる指導を行う。
		② 浄水場の役割を理解すること。	② 地図上における方位と地図記号を関連付けて考えること。	⇒ 四方位、方位を表す記号の意味、地図記号について、継続的に指導し、知識の定着を図る指導を行う。
	算数	① 数の相対的な大きさについて理解すること。	① 身近にあるものの面積を推察すること。	⇒ 量感を育むために、身近な物の面積を調べる際に、調べる面積について見当を付けさせる指導を行う。
			② ひし形の性質を言葉で説明すること。	⇒ 2つの三角形を組み合わせてできる四角形は、どのような四角形になるか説明させる指導を行う。
	理科	① 一年間の、植物の成長や動物の活動の様子を理解すること。	① 電流の向きが変わると、モーターの向きも変わることを理解すること。	⇒ 問題意識を持たせながらモーターの実験に取り組みせ、回る向きをとらえることのできるよう指導を行う。
		② 物の温度と体積の関係や、物の温まり方を説明できること。	② 水が氷になるときの温度の変化の様子を正しく理解すること。	⇒ 水の温度下降を記録させながら、水の状態変化の様子をしっかりと観察させる指導を行う。
小学校6年	国語	① 物語の内容を読み取ること。	① 与えられた文章を読み取り、書き方の類似点を指摘すること。	⇒ 筆者の意見について図やグラフ、資料などの関係を押さえながら読み取らせる指導を行う。
		② 敬語(謙譲語)を使うこと。	② 話し合いの司会者の役割を理解して、計画的に話し合うこと。	⇒ テーマに沿った話し合いをするために、事前に発言メモを作成させ、理由を述べさせる指導を行う。
	社会	① 自動車の輸出について資料をもとに説明すること。	① 漁業別生産量の変化を200海里問題や各漁業の特色と関連付けて読み取ること。	⇒ 漁業別生産量の変化と水産物輸入量のグラフとを比較させ、二つのグラフを関連付けて考えさせる指導を行う。
		② 農業の品種改良について資料をもとに説明すること。	② 都道府県の名称や位置を工業地帯・工業地域や特産物と関連付けること。	⇒ 都道府県名や地方の名前から、どこにあるのかを推測させ、地図帳を使って確認させる指導を行う。
	算数	① 三角柱の見取り図から、展開図の辺の長さを読み取ること。	① 単位量当たりの考え方を使って問題を解くこと。	⇒ 必要な事柄を抽出させ、式や計算して求めた数値の意味を数直線図などで説明させる指導を行う。
			② 問題文から比較量と基準量を見出し、立式すること。	⇒ 基準量と比較量の関係をとらえさせるために、数直線図などに表して考えさせる指導を行う。
	理科	① 流れる水の3つの働きについて理解すること。	① ヘチマとアサガオの花のつくりの共通点や違いを理解すること。	⇒ 実際にヘチマとアサガオなどの花を分解し、観察を通して比較しながら理解させる指導を行う。
			② 顕微鏡を正しい順番で使うこと。	⇒ 教室にも顕微鏡を数台準備するなど、児童が顕微鏡に触れる機会を増やし、正しい使い方について指導を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校 1年	国語	① 話し合いの内容を聞き取ること。	① 複数の文章の内容を読み比べ、類似する文章を選ぶこと。	⇒ 文章の内容を正確に理解させ、類似した文章について相違点を明らかにしながら読み比べさせる指導を行う。
		② 文学作品の内容を読み取ること。	② 話し合いの内容を正しく読み取り、必要な情報を選択し、もらさず伝えること。	⇒ 聞き手を意識した構成や効果的な資料の提示の仕方を理解させ、聞いた内容を簡潔にまとめさせる指導を行う。
	社会	① 安土桃山時代から江戸、明治、昭和時代の社会の様子を理解すること。	① 鎌倉幕府の始まりについて理解すること。	⇒ 武士が政治を動かす力をつけるまでの様子を、年表や資料を活用して調べさせる指導を行う。
			② 日本国憲法の3原則、国民の権利などの内容を正しく理解すること。	⇒ 日本国憲法や国民の権利について、生活との関わりの中から具体的な事例を取り上げて指導を行う。
	数学	① 2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めること。	① 複数のカードの並び順を、落ちや重なりがないように分類整理すること。	⇒ 起こり得る場合を順序よく整理させ、調べることを全ての場合を列挙させる指導を行う。
			② 割合が一定のときに、基準量の変化から比較量の大小を判断し説明すること。	⇒ 割合が等しいときは、基準量が大きいほど比較量が大きくなることを数直線図や図で気付かせる指導を行う。
理科	① 電気がエネルギーに変えられて様々な電気器具に利用されていることを理解すること。	① 未知の水溶液を特定する実験について計画すること。	⇒ 複数の実験結果を表にまとめさせ、水溶液の特徴や性質をとらえさせる指導を行う。	
		② 植物の体内の水の通り道を理解すること。	⇒ 食紅を溶かした水を使うなど、植物の体内の水の通り道を可視化して観察させる指導を行う。	
中学校 2年	国語	① 話し合いの内容を聞き取ること。	① 文節どうしの関係（主語、述語）を識別すること。	⇒ 文を構成する文の成分を確かめさせ、順序や照応などの文節どうしの関係を理解させる指導を行う。
		② 条件に合わせて作文すること。	② 発表原稿の内容を正確にとらえて要旨をまとめること。	⇒ 段落の役割や文章の構成を考えながら読むことや、中心的、付加的な部分を読み分けさせる指導を行う。
	社会	① 国の名称や海洋の分布など、世界の地域構成を理解すること。	① 日本の古代の特色を、年表から読み取ること。	⇒ 古代の政治等の仕組みや、制度を制定した背景等をまとめさせる指導を行う。
		② 世界各地の人々の生活と環境の関係について資料から読み取ること。	② 平安時代の文化の特色を踏まえて、その文化の代表的な資料を理解すること。	⇒ 平安時代の文化、貴族の生活、かな文字等について、一覧などにまとめさせる指導を行う。
	数学	① 度数分布表を読み取ること。	① 分子が一次式である分数の加法計算ができること。	⇒ 文字式と方程式を比較させることによって、その違いを理解させる指導を行う。
		② 平面図形を作図すること。	② 球の体積を求めること。	⇒ 立体説明用教具などを活用したり、生徒自身に公式を導かせたりする指導を行う。
	理科	① 植物のからだのつくりとはたらきを理解すること。	① 光源を動かしたときの、スクリーン上の像の変化を理解すること。	⇒ 与えられた条件下だけでなく、自ら課題設定する実験を通して、現象を実感できるような指導を行う。
		② 身のまわりの物質とその性質を説明すること。	② 酸素の発生が植物の働きによることを確かめる対照実験を設定できること。	⇒ 要因と思われる条件だけを変え、他の条件は変えないといった対照実験の基本を身に付けさせる指導を行う。
	英語	① 自分の友達または家族について、英文で説明すること。	① 現在進行形・過去形の疑問文の文法を理解すること。	⇒ 場面に合った疑問文や応答文を用いて表現をさせる機会を設け、文法事項の復習を合わせた指導を行う。
		② 様々な英文を読み取ること。	② 与えられた情報をもとに、既習事項を応用して適切な英語で表現すること。	⇒ 言語活動を工夫し、学んだ知識を実際の活動の中で活用できる力を身に付けさせる指導を行う。

学年	教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
中学校3年	国語	① 漢字を読むこと。	① 説明文の展開に即して内容をとらえること。	⇒ 文章全体を大きなまとまりに分け、分けたまとまりごとに、小見出しを付けて読ませる指導を行う。
		② 文法・語句を理解すること。	② 新聞記事の内容を読み取り、まとめること。	⇒ 段落ごとのキーセンテンスを確かめさせ、他の段落や文との関係を押さえさせる指導を行う。
	社会	① 日本の諸地域の産業の特色について、写真やグラフから読み取ること。	① 日本の国土の範囲と、世界の主な国の名称と位置、緯度の関係を理解すること。	⇒ 緯線と経線を地図や地球儀で確認させ、緯度と経度、緯線と経線の違いを正しく理解させる指導を行う。
		② 明治時代の社会の様子を理解すること。	② 桃山文化の特色と、その時代の政治面での代表的な人物とを関連付けること。	⇒ 時代背景を踏まえた上で、城の特色や芸術作品について、自分の言葉で説明させる指導を行う。
			③ 江戸時代に発達した学問について特徴を押さえること。	⇒ 江戸時代の学問について、当時の人々や社会情勢などの側面からも関連付けながら理解させる指導を行う。
	数学	① 三角形の合同を証明すること。	① 十と一の位の数を入れ替えた数の計算について、文字を用いた式を使って説明すること。	⇒ 帰納や類推によって成り立つ事柄を予想させ、文字を用いた式で説明する必要性を理解させる指導を行う。
		② 確立の意味を理解し、求めること。	② 座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求めること。	⇒ 関数のグラフと図形を関連付けて考えさせ、課題を解決するための思考過程を言葉で説明させる指導を行う。
	理科	① 化学変化と物質の質量の関係について理解すること。	① 肺動脈と大動脈を流れる血液の性質の違いを理解すること。	⇒ 各臓器の働きと関連させ、物質がどのように移動していくかを説明させる指導を行う。
		② 動物のからだのつくりと働きを理解し説明すること。	② 家庭の電気器具の使用時間を減らすことで節約できる電力量を求めること。	⇒ 自宅の1か月あたりの消費電力量や、主な電気器具の消費電力を確認し、実生活と関連付けた指導を行う。
			③ 雲のでき方をモデル実験で検証すること。	⇒ 簡易真空装置やフラスコなど、様々なモデル実験で、空気の膨張を視覚的に理解できるような指導を行う。
	英語	① 英語で説明する文を書くこと。	① Why を用いた問いに対して不定詞を用いて答えること。	⇒ 様々な既習事項を組み合わせた練習や、実際の使用場面を想定した指導を行う。
		② 様々な英文を読み取ること。	② スピーチの内容をふまえて感想を書くこと。	⇒ 英語における現在時制・過去時制の表している意味を考えさせ、図を使いイメージでとらえさせる指導を行う。

## 資料 3

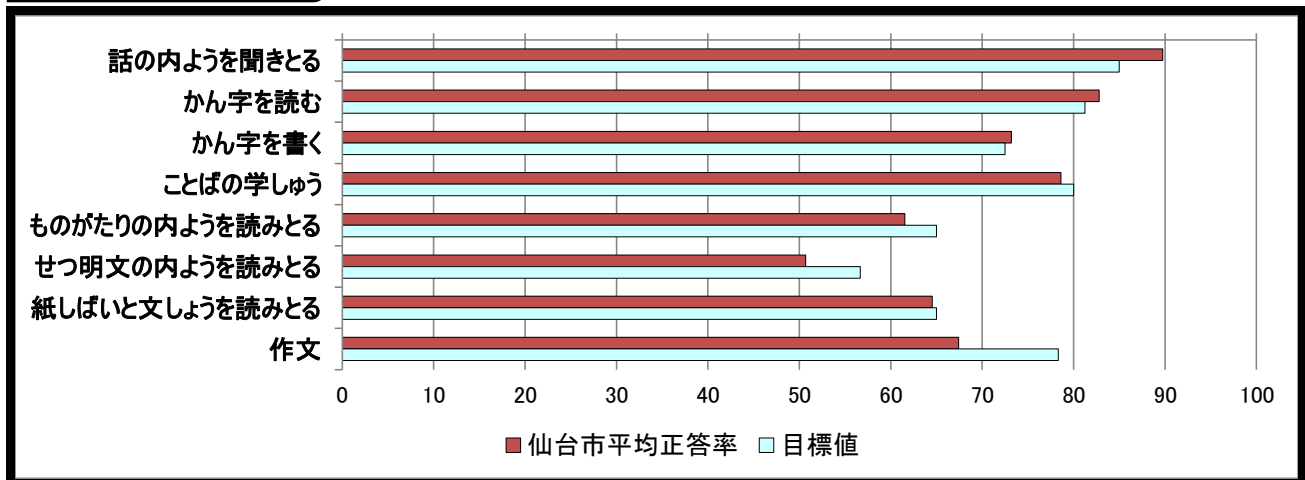
### 平成27年度仙台市標準学力検査分析結果と指導改善の方策【学年・教科】

※ 以下、各学年のグラフは、内容別正答率を表したものの

#### 【小学校3年生 国語】

#### 分析結果

目標値 73.6% 市平均正答率 71.9% <2年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「話の内よきを聞き取る」では目標値を4.7ポイント上回っている。
- ②「かん字を読む」「かん字を書く」ではそれぞれ目標値を1.5ポイント、0.7ポイント上回っている。
- ①「せつ明文の内よきを讀みとる」では目標値を6.0ポイント下回った。要因として、書いてある内容を正確に読み取る力が不足していること、自分の経験と結び付けて考え、誤読する傾向があることが考えられる。
- ②「作文」では、目標値を10.9ポイント下回った。題意をとらえる力が不足しており、何をどのように書けばよいのか分からなかったものと考えられる。無解答率が16.9%と高く、設問までたどり着けなかった可能性もある。問題文を読む速さに課題があると考えられる。

#### 指導改善の方策

##### ① 叙述に即して正確に読み取らせるために

この設問では、叙述に即した言葉を選択することをねらいとしている。説明文中の「夜ねむっている間は、ふかいねむりとあさいねむりを、じゅん番に四回くらいくりかえしています」を受け、「四回くらいは、ゆめを見ているはずです」を選択することになる。しかし、「一回だけしか、ゆめを見ていないのです」という誤答を選択した児童が多かったことから、本文と現実(自分の経験)を切り離して考えることが難しいという実態があると思われる。

指導に当たっては、叙述に即して文章を正確に読み取ることがねらいとした授業を展開していくことが大切である。どこに、どのように書かれているのか意識させるため、言葉を囲んだり、線を引かせたり、ノートに抜き出して書かせたりする活動を取り入れていくことが有効であると思われる。また、授業の中で多様な音読を取り入れ、適切な速さで正しく読む習慣を身に付けさせることも大切である。

##### ② 経験・想像したことの中から書くことを決め、自分の考えを書かせるために

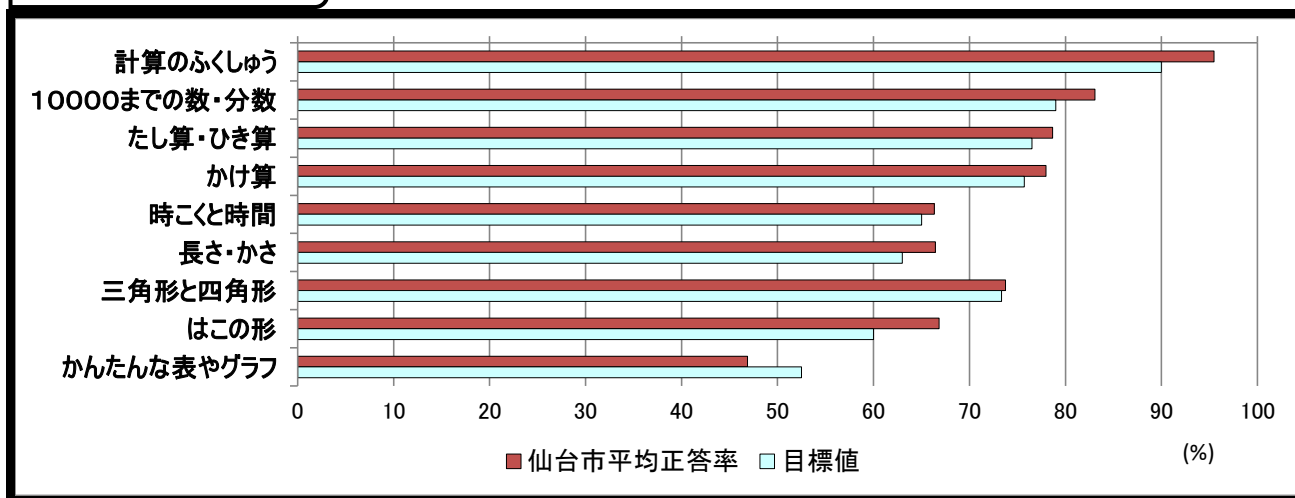
この設問は、経験・想像したことの中から書くことを決め、自分の考えを明確に書くことをねらいとしている。指定された長さで文章を書くことができた児童は73.4%いたが、経験・想像したことの中から書くことを決め、文章に書くことができた児童は61.3%、自分の考えを明確に書くことができた児童は67.6%であった。無解答率は16.9%と高く、時間不足や問題の難しさが原因と考えられる。普段の授業では、例文を参考にして作文を書くことが多いので、条件のみ示されて書くのは難しかったと推測される。

指導に当たっては、何を書けばよいのかをノートに箇条書きさせ、その中から書きたい事柄を選ばせる指導が有効である。また、「始め・中・終わり」の「中」を取り上げ、どの順番で書くのかを確認してから書かせるなどの工夫が必要である。

## 【小学校3年生 算数】

### 分析結果

目標値 72.6% 市平均正答率 75.1% < 2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「はこの形」では、目標値を6.8ポイント上回っている。
- ② 「計算のふくしゅう」では、目標値を5.5ポイント上回っている。
- ③ 「10000までの数・分数」では、目標値を4.1ポイント上回っている。
- ④ 「かけ算」では、文章や図を理解し、乗法を用いた式で表す問題に課題が見られる。
- ⑤ 「かんたんな表やグラフ」では、目標値を5.6ポイント下回っている。さらに、無解答率も20%を超えている。資料を整理し、簡単なグラフに表したり、グラフの考察をしたりすることに課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① ものの個数を工夫して求めることができるようにするために

この設問では、ものの個数を工夫して求める場面において、考え方や図を理解し、乗法を用いた式で表すことをねらいとしている。誤答内容は、「考え方は理解しているが、式が書けていない」「式は書けているが、考え方を理解していない」というものであった。無解答率も20%近くあり、数学的な思考力・表現力に課題が見られる。

指導に当たっては、個数を数える方法を様々なかけ算の式で表したり、かけ算の式から数え方を判断して表現したりすることが大切である。また、具体的な場面を設定し、式で表す学習を繰り返し行うことも必要である。

#### ② グラフから数を読み取り、指定した項目との数の違いを求めることができるようにするために

この設問は、グラフから数を読み取り、指定した項目との数の違いを求めることをねらいとしている。誤答分析から、「問題文を読み取ることができない」「分類整理が正確にできず、グラフを完成させることができない」等の課題が考えられる。また、無解答率も30%近くとなっている。

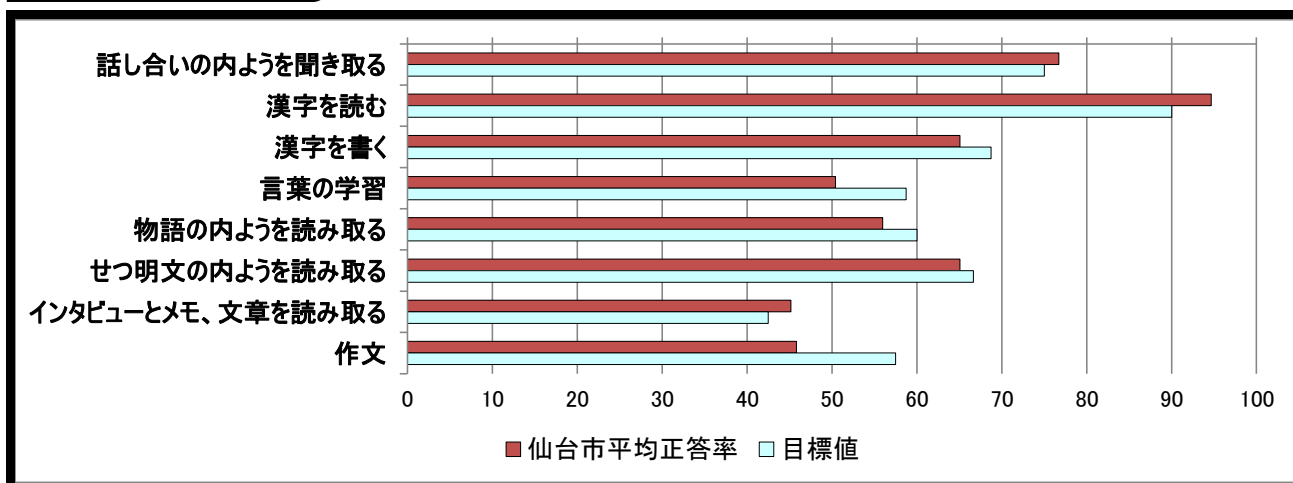
指導に当たっては、長文問題において、「分かっていること」「問われていること」に下線を引かせるなど、問題場面をしっかりと読み取らせることが必要である。また、資料を整理してグラフに表す学習では、一つ一つの活動を児童と一緒にいたり、グラフの特徴や傾向を読み取る活動を行ったりするなど、丁寧に指導していくことが重要である。



## 【小学校4年生 国語】

### 分析結果

目標値 66.3% 市平均正答率 63.2% <3年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「話し合いの内容を聞き取る」では目標値を1.7ポイント上回っている。
- ②「漢字を読む」では目標値を4.7ポイント上回っている。
- ①「物語の内容を読み取る」では4.0ポイント、「説明文の内容を読み取る」では1.6ポイント、それぞれ目標値を下回っている。書かれた文章の内容を正しく読み取る力に課題が見られ、改善が必要である。
- ②「作文」では目標値を11.7ポイント下回っており、条件に合わせて書く力に課題が見られる。無解答率も19.0%と高いことから、内容の読み取りに時間がかかり、設問まで至らなかった可能性も考えられる。

### 指導改善の方策

#### ① 登場人物の様子や心情を読み取らせるために

この設問では、叙述に即して登場人物の気持ちの変化を読み取る力が求められている。物語後半の「きのうの夜の風となんてちがうだろう」から、まわりをふく風のとらえ方に、『ぼく』の気持ちの変化が反映されていることが分かる。しかし、約7割の児童が「そばにすむ生き物」を選択した。これは、文章冒頭から頻繁に登場する生き物の印象が強く、気持ちの変化が現れている叙述に目が向かなかったことが理由と考えられる。

指導に当たっては、場面の移り変わりや叙述に気を付けながら、登場人物の様子や心情がどのように変化するかをしっかりと押さえていくことが必要である。

#### ② 相手や目的を意識し、自分の考えや感想を書かせるために

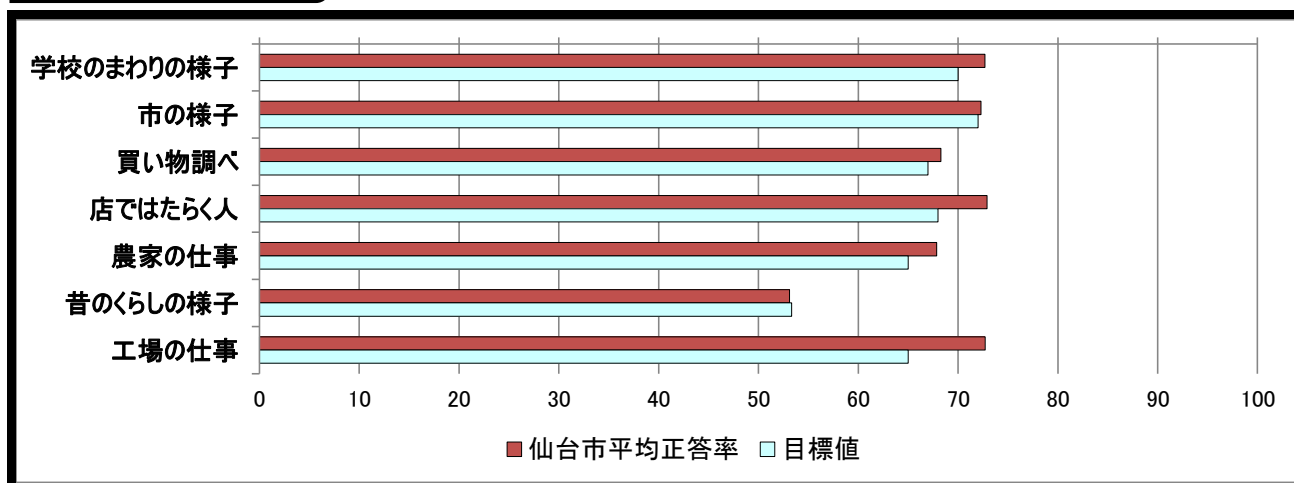
この設問では、相手や目的を意識して、行事の結果についての感想や、クラスの人たちに伝える言葉を書く力が求められる。結果についての感想やクラスの人たちに伝える言葉については、50.1%の児童が書けているが、指定された長さで文章を書くことができた児童は47.7%、2段落構成で書けた児童は34.7%であり、条件に合わせて書くことに慣れていないことが考えられる。

指導に当たっては、ただ「書きなさい。」という指導だけではなく、児童が書けない理由を分析し、その課題解決に向けた対応策を試みることが大切である。条件を与えて文章を書くことや書きたいことを順序立てて整理する方法を指導していくことが必要である。

## 【小学校4年生 社会】

### 分析結果

目標値 67.0% 市平均正答率 69.6% < 3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ① 「工場の仕事」では目標値を7.7ポイント上回っている。
- ② 「市の様子」の実際の場面に即した情報を基に地図から判断する設問では、目標値を若干下回っている。
- ③ 「昔のくらしの様子」の昔から続く地域の祭りについて資料を読み取る設問で、目標値を若干下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 地図の理解を深めることができるようにするために

この設問では、地図記号や地図上の凡例の理解に関する基本的な知識とそれを活用する力が問われている。誤答例では、出発点である「田と畑にはさまれた駅」を読み取れなかった児童が多く、その要因として地図記号の理解が十分ではないことが考えられる。また、「坂を上っていった」ところを「少し高いところ・高いところ」の凡例から判断する力が十分ではないと推察される。

指導に当たっては、地図記号や地図上の凡例の基となる写真資料などを活用し、具体的なイメージを持たせながら、地図の理解を深めることが必要である。また、フラッシュ教材などを活用しながら継続して取り組ませることによって知識の定着を図るとともに、提示した地図からその土地の様子を読み取る技能につなげていくことが大切である。

#### ② 文章資料から必要な情報を集めることができるようにするために

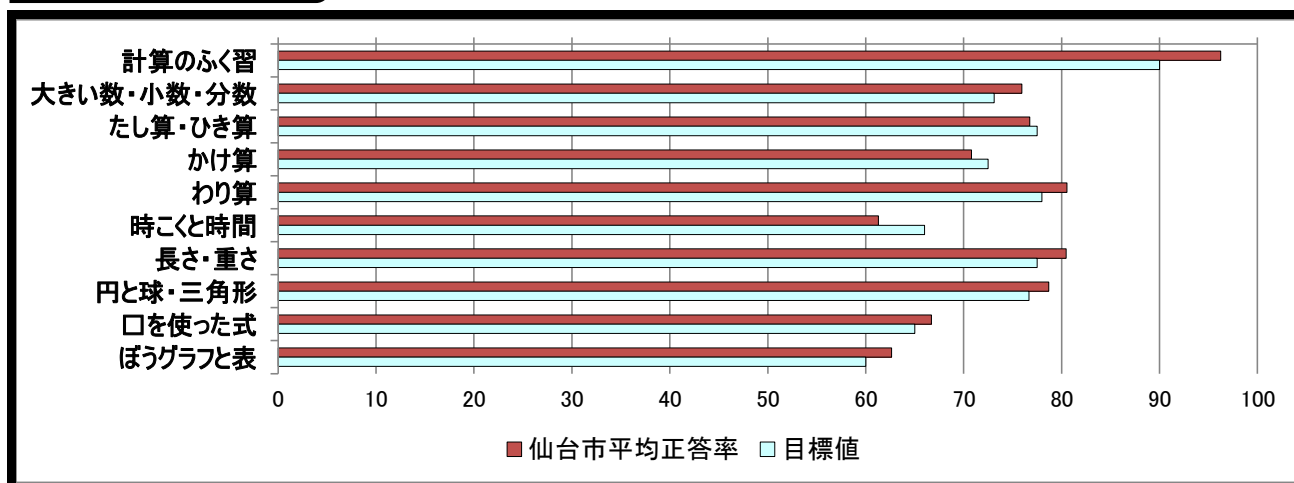
この設問は、文章資料「神社の人の話」を基に、昔の様子に関する正しい記述を選ぶものである。「田畑に作物がゆたかに実ることをいのる祭り」の部分で「田畑では毎年、作物がゆたかに実った」と誤読したものと考えられる。また、無回答率も高く、文章の資料から必要な情報を読み取る学習経験が不足していることが推察される。

指導に当たっては、文章資料を与える際には明確な視点を提示し、必要な情報を集めることができるようにする。また、ノートなどにまとめる際には、読み取った内容を視点ごとに箇条書きに分類・整理させるようにし、読み取った内容をクラスで共有化すると有効である。

## 【小学校4年生 算数】

### 分析結果

目標値 73.3% 市平均正答率 74.5% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「計算のふく習」では、目標値を6.2ポイント上回っている。
- ②「大きい数・小数・分数」では、目標値を2.8ポイント上回っている。
- ③「長さ・重さ」では、目標値を3.0ポイント上回っている。
- ④「計算のふく習」の「3けた+4けたの計算」では、目標値を5.2ポイント下回っている。繰り上がりのある計算に課題がある。
- ⑤「□を使った式」では、「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ」設問の市平均正答率が目標値を6.3ポイント下回っている。文章から場面をイメージし、立式する力に課題が見られる。
- ⑥「かけ算」では、「 $800 \times 7$ の計算のしかたを説明すること」の市平均正答率が目標値を4.3ポイント下回っている。百を単位として数をとらえ直すことや、計算の仕方を説明することに課題がある。

### 指導改善の方策

#### ① 繰り上がりのある計算が確実にできるようにするために

この設問では、繰り上がりが3回ある、3けたの足し算の筆算ができることが問われている。桁数が増えたことにより、繰り上がりを忘れてしまったり、被加数と加数の桁数が異なるため、位をそろえずに計算したりして誤答となったと考えられる。

指導に当たっては、一つ一つの繰り上がりを確実に書き、位をそろえて計算するよう繰り返し指導することが大切である。

#### ② 文章を読み取り、□を使った乗法の式に表すことができるようにするために

この設問では、□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶことができるかが問われている。誤答分析から、文章の中にある「同じ数ずつ」という言葉から乗法を想像し、乗法の式になる文章を選んだ児童が多かったことが考えられる。文章問題を解く際に、キーワードとなる言葉だけを読んで立式し、場面を想定していないことが原因として考えられる。

指導に当たっては、文章問題の指導は「言葉」「図」「式」を相互に関連させながら指導することが重要である。また、言葉から図を想像し、図から立式する力を育成していくことが大切である。式から図をかき、図を言葉で説明する活動を取り入れることで、□を使った式に表す力の定着を図ることができる。と考える。

#### ③ 計算の仕方を説明することができるようにするために

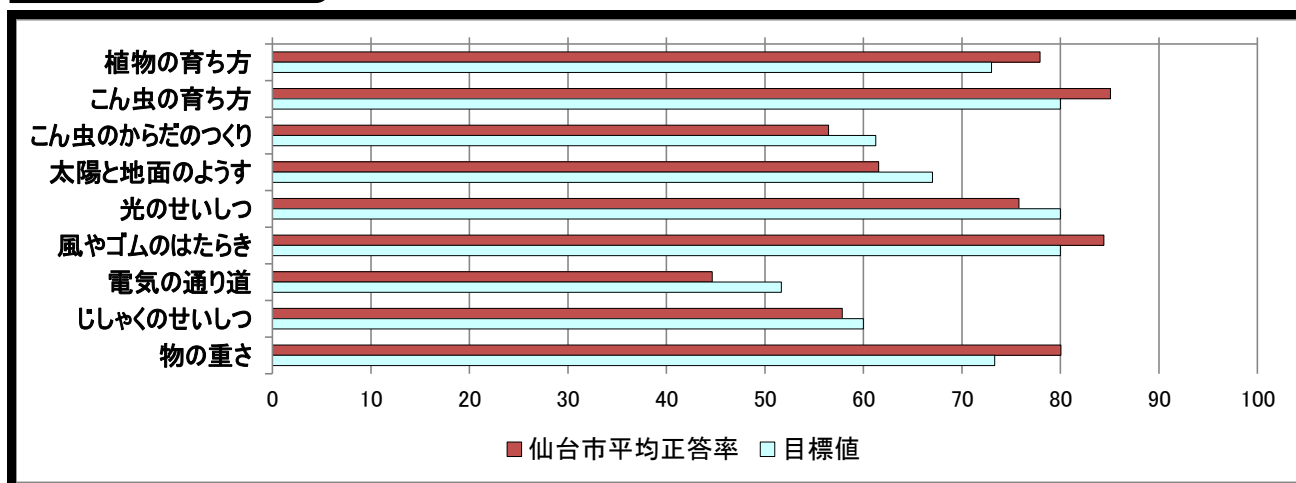
この設問では、 $800 \times 7$ の計算の仕方を説明することができるかが問われている。誤答例では、100の何個分であるか理解していないもの、例示された考えの数値をそのまま記入しているもの、800と7を出てきた順に記入しているものが見られた。

指導に当たっては、計算の仕方を説明する力、説明を読み取り、活用する力を育成していくことが大切である。計算指導において、自分の考えを書かせたり、発表させたりすることのほかに、友達のことを読み取らせる活動も取り入れる必要がある。また、数値が異なる場合でも同様の考え方ができるか取り上げ、検討させる活動を取り入れることも考えられる。

## 【小学校4年生 理科】

### 分析結果

目標値 68.4% 市平均正答率 67.9% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「こん虫の育ち方」では、目標値を5.1ポイント上回っている。
- ②「物の重さ」では、目標値を6.7ポイント上回っている。
- ①「太陽と地面のようす」では、「太陽の1日の動き」の設問で目標値を9.3ポイント下回っている。特に、太陽と影の関係に方位を関連付けて、太陽の1日の動きを捉えることに課題がある。
- ②「電気の通り道」「じしゃくのせいしつ」においても、目標値を大きく下回る設問がある。児童が、電気の性質と磁石の性質を区別できていないことが課題である。

### 指導改善の方策

#### ① 太陽の1日の動きを理解することができるようにするために

この設問では、太陽の1日の動きについて問われている。誤答分析から、太陽と影の位置関係から太陽の動きを関係付けて理解することができていないと考えられる。

指導に当たっては、太陽と影の関係、更に方位を関係付けながら指導していく必要がある。太陽と影の観察とともに懐中電灯などを用いて影のでき方を調べさせ、モデル実験による疑似体験をさせたり、観察の際には記録用紙に方位磁針を貼り付けるなどの工夫をすることで方位を常に意識させたりすることが考えられる。

#### ② 電気を通す物質と磁石に引き付けられる物質について理解することができるようにするために

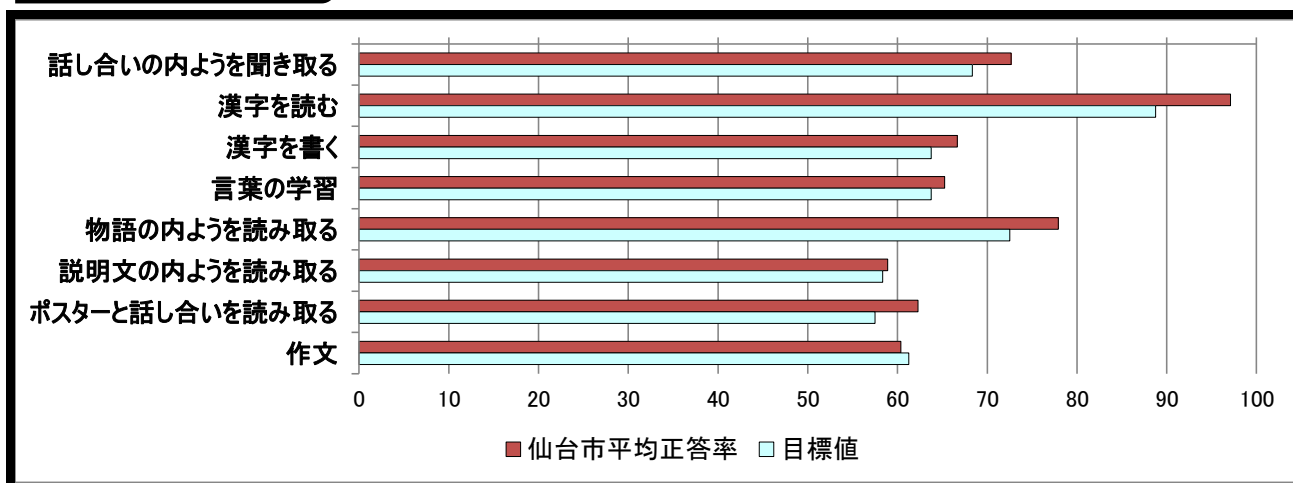
この設問では、銅でできた10円玉は電気を通すが、磁石に引き付けられないことを理解していることが問われている。市平均正答率が15.7%と低く、正答を選択しても理由を正しく記述できない児童が32.5%と多かった。これは電気を通す物質と磁石に引き付けられる物質を混同しているため、「銅は電気を通すが、磁石に引き付けられない」ということをしっかり把握していないことが原因と思われる。

指導に当たっては、「じしゃくにつけよう」の学習で磁石に付く物を探す活動をする際、前単元の「明かりをつけよう」で学習した電気を通す物と比較しながら、指導する必要がある。さらに、次単元の「つくってあそぼう」において、鉄及びその他の金属の性質に着目させ、ものづくりに取り組ませるなかで、理解を深めていくことも大切である。

## 【小学校5年生 国語】

### 分析結果

目標値 67.7% 市平均正答率 71.0% <4年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「漢字を読む」では目標値を8.3ポイント上回っている。
- ②「物語の内容を読み取る」では目標値を5.4ポイント上回っている。
- ①「説明文の内容を読み取る」は目標値とほぼ同等であったが、「段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る」問題では7.8ポイント下回った。それぞれの段落の内容を的確にとらえる力に課題があると考えられる。
- ②「作文」は目標値を0.9ポイント下回った。目的や必要に応じて、取材内容と取材者としての感想とを区別して書く力に課題があると考えられる。

### 指導改善の方策

#### ① 段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取らせるために

この設問では、段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることが求められている。6段落ある文章全体を大きく二つに分けるのだが、文章のまとまりを考える時の手がかりとなる接続語（ここでは「しかし」）のみに着目してしまうと正しく分けることができない。それぞれの段落の内容を的確に押さえることができなかった児童が多かったことがうかがえる。

指導に当たっては、段落分けにおいて、接続語に着目するのも有効であるが、それだけで判断するのではなく、繰り返される大事な言葉（キーワード）を重視しながら、それぞれの段落が説明している内容を的確に読み取らせること、また、段落相互の関係をとらえさせることが必要である。

#### ② 目的や必要に応じて「自分の考え」と「出来事（事実）」を区別して書かせるために

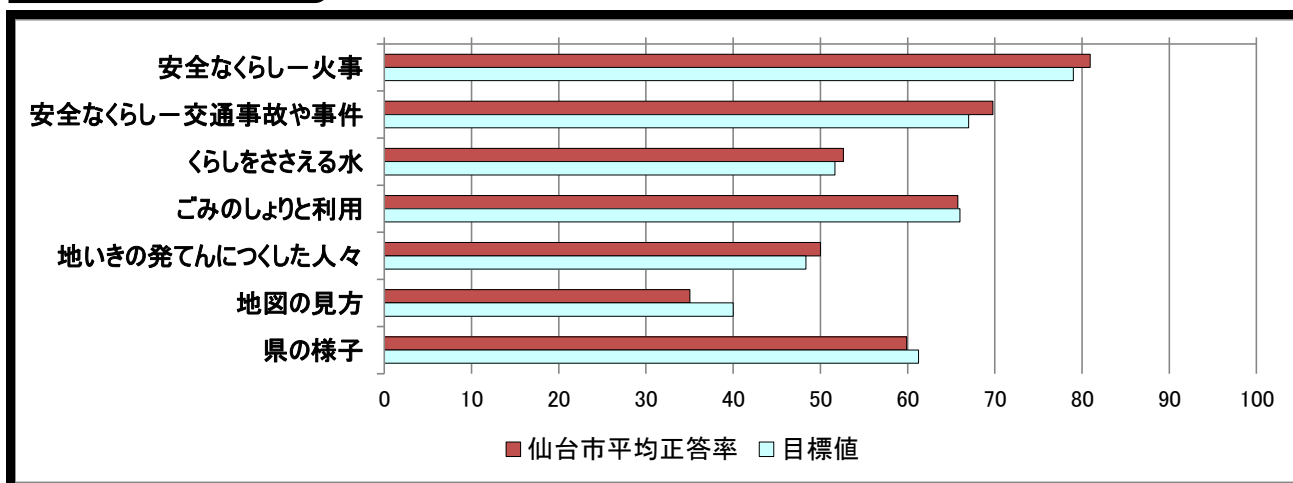
この設問では、目的や必要に応じて、取材内容と取材者としての感想をまとめた文章を書くことが求められている。指定された字数を満たしている児童は71.2%と高い数値を示しているものの、「取材をした相手の話」は書いているが、「取材者としての感想」を書いていない児童が41.9%であった。字数は満たしているが最後まで解答しきれなかったということも考えられるが、自分の考えをしっかりと持つことや取材したことと感想の書き方の区別を明確にして書くことが課題であると考えられる。

指導に当たっては、「自分の考え」と「出来事（事実）」を区別して書く指導が必要である。色別の付箋紙やカードなどに区別して書かせ、文章にする際に文末表現に気を付けさせながら書く活動を取り入れていくなどの工夫が必要である。

## 【小学校5年生 社会】

### 分析結果

目標値 61.6% 市平均正答率 62.0% < 4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「安全なくらしー火事」「くらしをささえる水」「地いきの発てんにつくした人々」では、目標値を上回っている。
- ②「安全なくらしー交通事故や事件」では、思考・判断・表現の問題において、目標値を5.2ポイント下回っている。絵や文章などの資料を読み取る力に課題が見られる。
- ③「地図の見方」では、思考・判断・表現の問題において、目標値を7.5ポイント下回っている。方位についての理解と、地図と方位を関連付けて考えることに課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 警察の仕事の意味を考えさせるために

この設問では、交通事故が発生した際の警察官の仕事を表した絵や文章の資料と、警察の仕事についての知識を関連付けて考えることが求められている。誤答分析から、警察官が交通事故や事件を未然に防ぎ、人々のくらしを守るために努力していることについての理解が十分でないことが考えられる。

指導に当たっては、警察の仕事について見学活動や具体的資料を活用して調べさせることが必要である。また、その仕事が行われている理由や意味について調べ、考えさせることが大切である。さらに、学習をまとめる活動では、警察官の仕事に対する思いや願いについて、自分の言葉でまとめることができるようにすることが大切である。

#### ② 四方位を確実に定着させるために

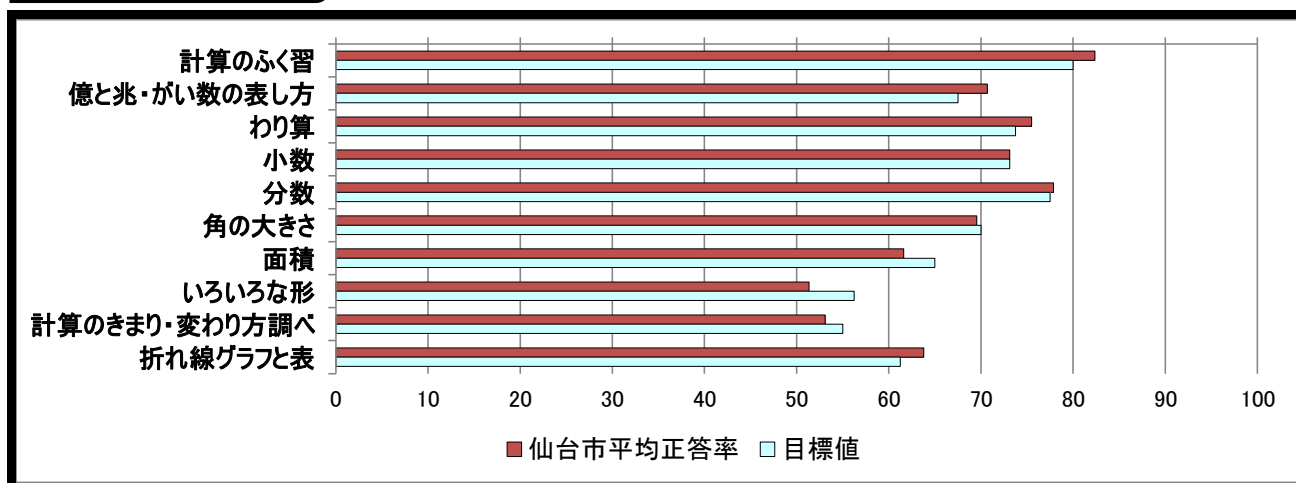
この設問では、地図上における方位と地図記号を関連付けて考え、道順について判断することをねらいとしている。「西」と解答するところを他の方位で解答した児童が多かったことから、地図上における四方位が確実に定着していないことが考えられる。

指導に当たっては、四方位、方位を表す記号の意味、地図記号について、学年を問わず継続的に指導し、知識の定着を図ることが必要である。地図上で道案内をする活動を行うなど、地図に関する知識を活用させる場面を設けることが大切である。

## 【小学校5年生 算数】

### 分析結果

目標値 68.2% 市平均正答率 68.2% < 4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ① 「億と兆・がい数の表し方」では目標値を3.2ポイント上回っている。
- ① 「面積」のうち「身近にあるものの面積を推察することができる」の設問では、目標値を5ポイント以上下回っている。面積についての量感が十分に身に付いていないと考えられる。
- ② 「いろいろな形」のうち「平行四辺形の作図ができる」「ひし形の性質を理解している」の設問では、目標値を10ポイント以上下回っている。それぞれの四角形についての理解や作図の技能が十分に身に付いているとは言えない。また、「ひし形の性質を理解している」の設問では無解答率も高く、自分の考えを文章で表現するという点でも課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 面積の量感を身に付けることができるようにするために

この設問では、教科書の表紙の面積の量感がきちんと捉えられているかが問われている。教科書の表紙の面積として、正答である450cm<sup>2</sup>を選ばず、45cm<sup>2</sup>を選んだ児童が58.6%にも上っていることから、面積の量感が十分に身に付いていないと考えられる。

指導に当たっては、面積の量感を捉えさせるために、身近な物の面積を調べる活動を十分に行うことが必要である。その際、調べる活動の前に、調べる面積について見当を付けることが重要である。「見当を付ける→調べる→見当が妥当か振り返る」の過程を繰り返し行うことで、正確に見当を付けることができるようになり、それが量感を身に付けることへとつながっていくと考えられる。また、単元に関わらず、面積の適切な単位や数値を繰り返し考えさせることで、面積についての理解の定着を図っていくことが大切である。

#### ② ひし形の性質を理解することができるようにするために

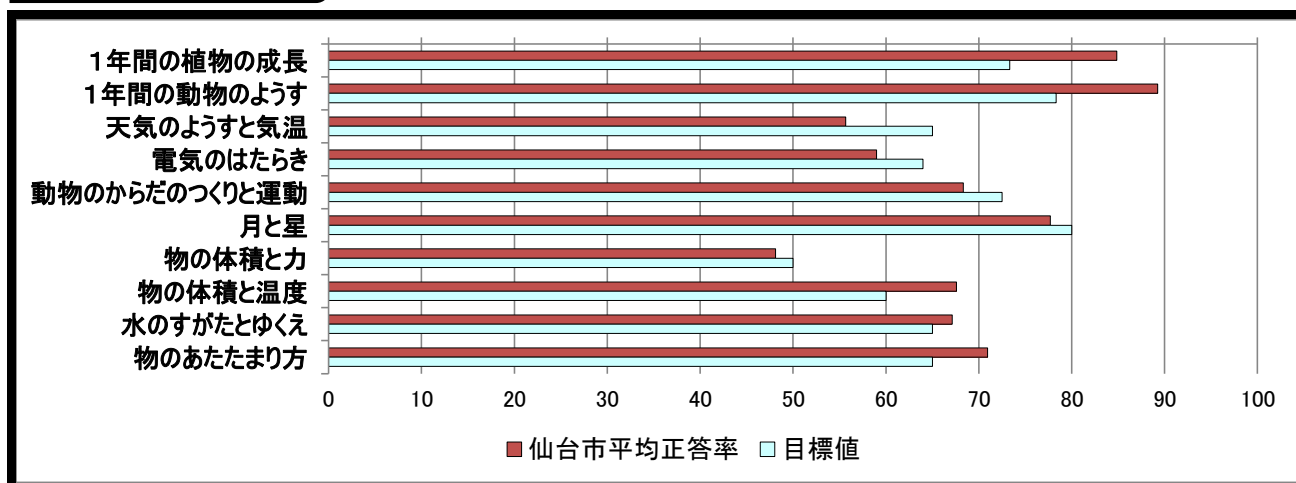
この設問では、ひし形の性質を正しく理解し、言葉で説明できるかが問われている。誤答分析から、例示されている説明からひし形のどのような性質をあてはめたらよいか、適切に判断できなかったものと考えられる。また、無解答率が25.5%と多いことから、自分の考えを言葉で説明することに苦手意識を持つ児童が多いと思われる。

指導に当たっては、2つの三角形を組み合わせてできる四角形は、どのような四角形になるか説明する活動を取り入れることが大切である。また、学習した用語や、辺ABなどのような表現を使って説明する活動に取り組んでいくことも考えられる。

## 【小学校5年生 理科】

### 分析結果

目標値 67.6% 市平均正答率 69.2% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「1年間の植物の成長」「1年間の動物のようす」「物の体積と温度」「物のあたたまり方」では、目標値を5ポイント以上上回っている。
- ②「電気のはたらき」では、目標値を5.0ポイント下回っている。
- ③「水のすがたとゆくえ」では、内容別正答率は目標値を上回ったが、水が氷になるときの温度変化については、目標値より9.1ポイント下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 電流の向きが変わると、モーターの向きも変わることを理解することができるようにするために

この設問では、乾電池の向きを反対につないだ回路におけるモーターの回り方と、検流計の針がふれる向きとの関係について問われている。誤答分析から、電池の向きが変わると電流の向きが変わり、モーターの回る向きも変わることを正しく理解できていない児童が多いことが考えられる。

指導に当たっては、単元の導入で一人一人にモーターを回す経験を十分にさせ、モーターの回る向きの違いに気付かせて、問題意識を持たせることが大切である。電流の向きを調べる実験では、検流計を用い、電流の向きとモーターの回る向きを関係付けてとらえさせるようにすることが必要である。

#### ② 水が氷になるときの温度の変化が分かるようにするために

この設問では、水が氷になるときの温度の変化の様子が分かることが問われている。目標値を9.1ポイント下回っており、誤答分析から、0℃になったとき、水はすべて氷になったと考えている児童が多いと考えられる。

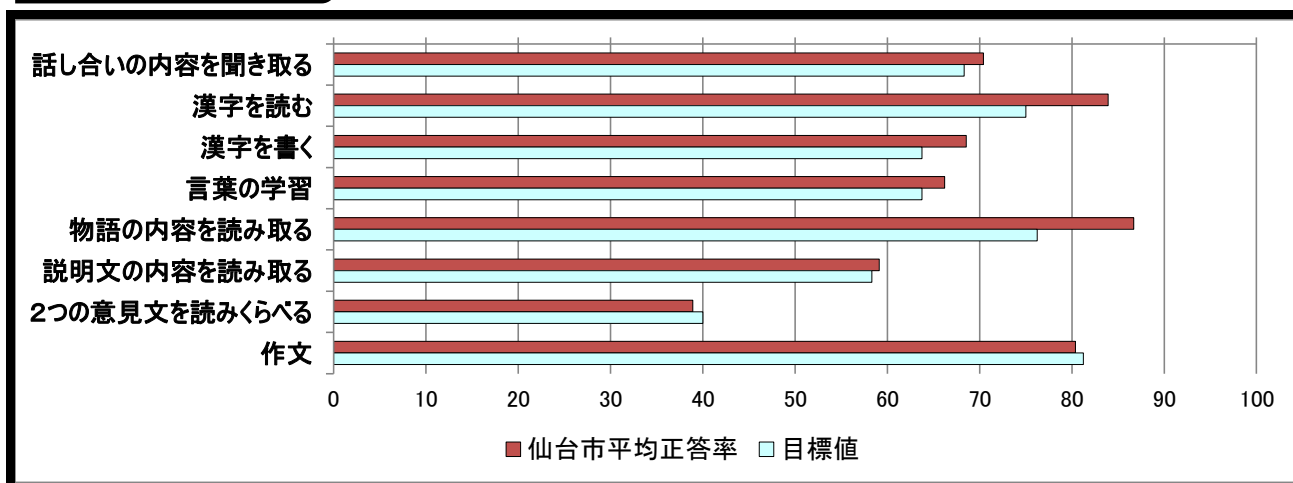
指導に当たっては、「水のすがたとゆくえ」の単元において、1分ごとに水の温度の変化を読み取らせるのと同時に、水の様子がどのように変化していくのかしっかりと観察させることが重要である。また、結果をグラフに整理するときには、水が凍り始めたときや全て水が凍ったときの温度を表に記録させるようにすることが必要である。



## 【小学校6年生 国語】

### 分析結果

目標値 67.9% 市平均正答率 71.8% < 5年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「物語の内容を読み取る」では目標値を13.9ポイント上回っている。
- ②「言葉の学習」では、正しい敬語(謙譲語)の使い方を選ぶ設問が、目標値を13.8ポイント上回っている。
- ①「2つの意見文を読みくらべる」では目標値を6.6ポイント下回っている。与えられた情報を読み取り、文章の書き方の類似点を理解することに課題があると考えられる。
- ②「話し合いの内容を聞き取る」では目標値を上回っている。しかし、「司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことができる」の設問では7.3ポイント下回っている。分担された役割を理解し、その場に合わせて話し合いを進めることに課題があると考えられる。

### 指導改善の方策

#### ① 文章や資料から情報を適切に読み取り、主張の根拠をとらえさせるために

この設問では、与えられた情報を読み取り、文章の書き方の類似点を読み取ることをねらいとしている。解答形式は選択であるが、市平均正答率は33.4%にとどまった。誤答分析から、意見文の意見は読み取れるものの、意見を裏付ける根拠となる文章やグラフを読み取る力がしっかりと身に付いていないことがうかがえる。指導に当たっては、筆者の意見について、図やグラフ、資料などと関連させながら読み取らせる活動을丁寧に行うことが大切である。

#### ② テーマに沿った発言をさせるために

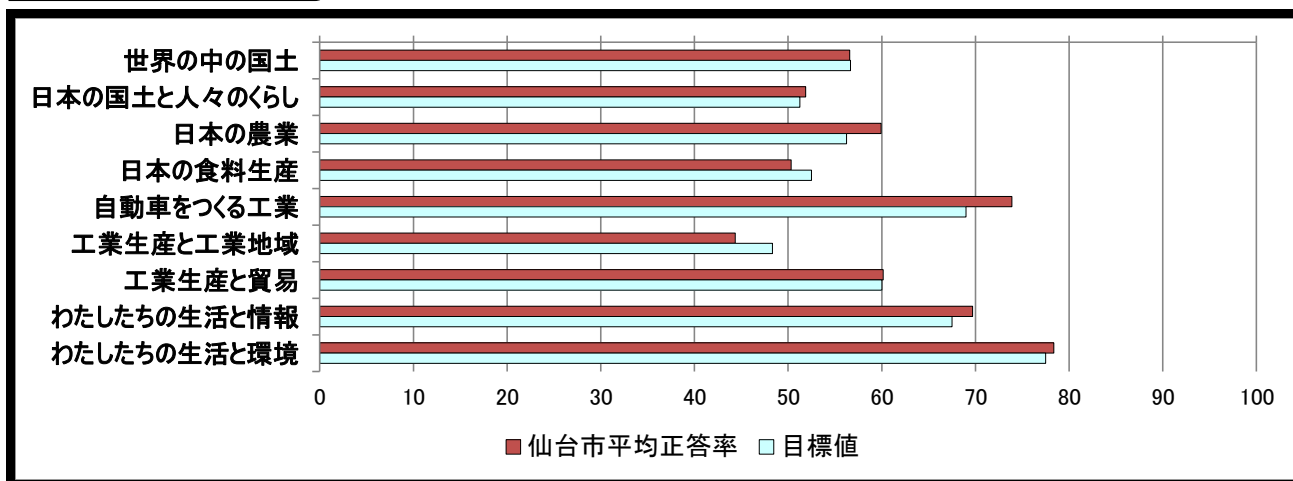
この設問では、司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことが求められている。テーマに沿った発言とはどのようなものなのか理解が不十分で、司会者として発言者にどのように指摘すればよいのか分からないことがうかがえる。また、発言者としてもテーマに沿った発言の仕方をしっかりと身に付けていないことが考えられる。

指導に当たっては、テーマから外れないように話すとはどのようなものなのかを十分に理解させることが必要である。また、テーマに沿った発言を行うために、話し合い活動の事前に発言メモを作成することや、理由を適切に述べるため、意見を主張するときに使う言葉を考えさせながら取り組ませることが大切である。

## 【小学校6年生 社会】

### 分析結果

目標値 59.0% 市平均正答率 59.9% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「日本の国土と人々の暮らし」「日本の農業」「自動車をつくる工業」「工業生産と貿易」「わたしたちの生活と情報」「わたしたちの生活と環境」における内容別正答率は、目標値を上回っている。
- ①「日本の食料生産」の観察・資料活用の技能を問う設問において、目標値を7.5ポイント下回っている。漁業別の生産量が、各漁業の特色や200海里等の問題点とどのように関連して推移しているのか、グラフから読み取ることができないことが原因として考えられる。
- ②「工業生産と工業地域」の知識・理解を問う設問において、目標値を9.4ポイント下回っている。都道府県の位置と工業地帯・地域を関連付けて考えることができないことが原因として考えられる。

### 指導改善の方策

#### ① 漁業別生産量の変化について、複数の資料から読み取ることができるようにするために

この設問では、漁業別生産量の変化を200海里水域の問題や各漁業の特色と関連付け、グラフから読み取ることが求められている。

指導に当たっては、漁業別の生産量の変化のグラフから読み取ったことをもとに、水産物輸出入量のグラフと比較させ、二つのグラフを関連付けて考えさせることが大切である。また、教科書や資料集の説明から、200海里水域の設定時期や、日本の遠洋漁業が減った問題が起きたことについて理解させることが必要である。それらの知識を関連付けて考え、自分なりに文章にまとめることによって、日本の水産業についての理解を深めることが重要である。

#### ② 工業地帯や工業地域の名称と位置を理解することができるようにするために

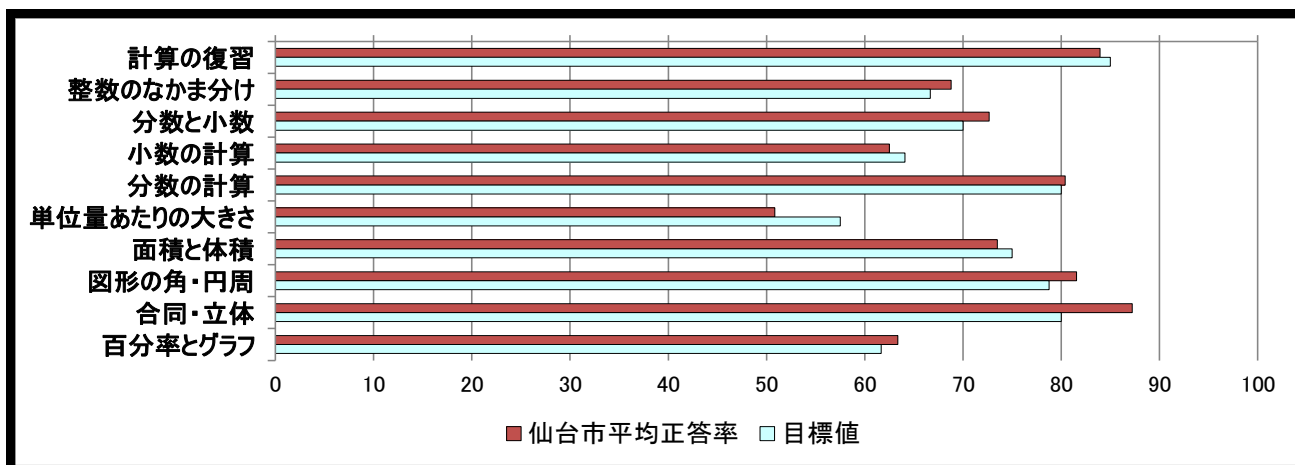
この設問では、都道府県の名称や位置を工業地帯・工業地域や特産物と関連付けて考えることが求められている。誤答例から、兵庫県の位置を理解していない児童が多く見られ、47都道府県の名称や位置についての知識が確実に定着していないことが分かる。

指導に当たっては、それぞれの工業地帯・工業地域がどのような県にまたがって広がっているか、都道府県名の一文字を表す名前や広く地方を表す名前から、どこの都道府県にあるのかを推測させ、地図帳を使って具体的に場所と都道府県名を確認させることが大切である。教室に日本地図と世界地図を常に掲示し、5年生の国土に関する単元や産業に関する学習、6年生の歴史の学習をはじめ、総合的な学習の時間や他教科においても積極的に活用し、47都道府県の名称や位置についての知識の定着を図りたい。

## 【小学校6年生 算数】

### 分析結果

目標値 70.5% 市平均正答率 70.7% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「合同・立体」では、目標値を7.2ポイント上回っている。
- ②「単位量あたりの大きさ」では、問題の場面を理解し、単位量当たりの考え方を使って解く問題において、目標値を12.1ポイント下回っている。無解答率も20.5%と高く、課題が見られる。
- ③「小数の計算」では、問題文から比較量と基準量を見出し、適切な式(小数の除法)を選択する問題において、目標値を17.4ポイント下回っている。小数の乗法や除法の仕組みの理解に課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 単位量当たりの考え方を身に付けることができるようにするために

この設問は、問題の場面を理解し、単位量当たりの考え方を使って問題を解くことをねらいとしている。誤答分析から、式の意味と計算して出た数値の意味を理解していないことが考えられる。

指導に当たっては、応用力を問う問題では文章が複雑になるので、問題を解くために必要な事柄を抽出させたり、数直線図などに表して式や計算して求めた数値の意味を説明させたりする活動を取り入れることが大切である。

#### ② 問題文の題意を正確に読み取ることができるようにするために

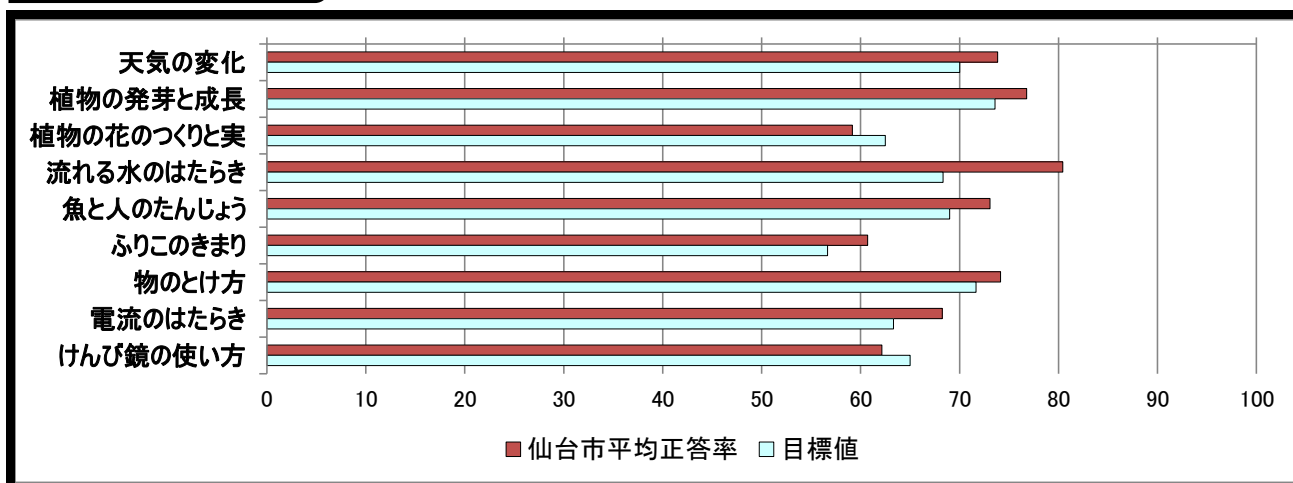
この設問では、問題文の題意を正確に読み取る力が求められる。誤答分析から、条件を見落とししたり、単位換算ができなかったりしたことが考えられる。

指導に当たっては、基準量と比較量の関係をとらえたり、答えが正しいか確認したりするために、数直線図などに表す活動を取り入れることが必要である。

## 【小学校6年生 理科】

### 分析結果

目標値 67.8% 市平均正答率 71.2% <5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○：成果 ●：課題)

- ①「流れる水のはたらき」では、目標値を12.1ポイント上回っている。
- ②「植物の花のつくりと実」では、ヘチマとアサガオの花の共通のつくりを問う設問において、目標値を7.8ポイント下回っている。ヘチマとアサガオの花のつくりの共通点や違いをとらえることに課題がある。
- ③「けんび鏡の使い方」では、顕微鏡の正しい使い方を問う設問において、目標値を9.9ポイント下回っている。顕微鏡の正しい使い方等、観察の技能に課題がある。

### 指導改善の方策

#### ① ヘチマとアサガオの花の共通するつくりを理解することができるようにするために

この設問では、ヘチマとアサガオの花のつくりについて問われている。誤答例では、ヘチマのおしべと同じはたらきをするものとして、アサガオのめしべを選ぶ児童が26.4%いたことから、ヘチマとアサガオの花のつくりを正しく理解できていないことが考えられる。

指導に当たっては、実際にヘチマとアサガオの花を分解し、観察を通して比較しながら理解させる指導が必要である。また、花粉が付着しているおしべや、めしべを実際に触れて観察させることが大切である。

#### ② 顕微鏡を正しく使うことができるようにするために

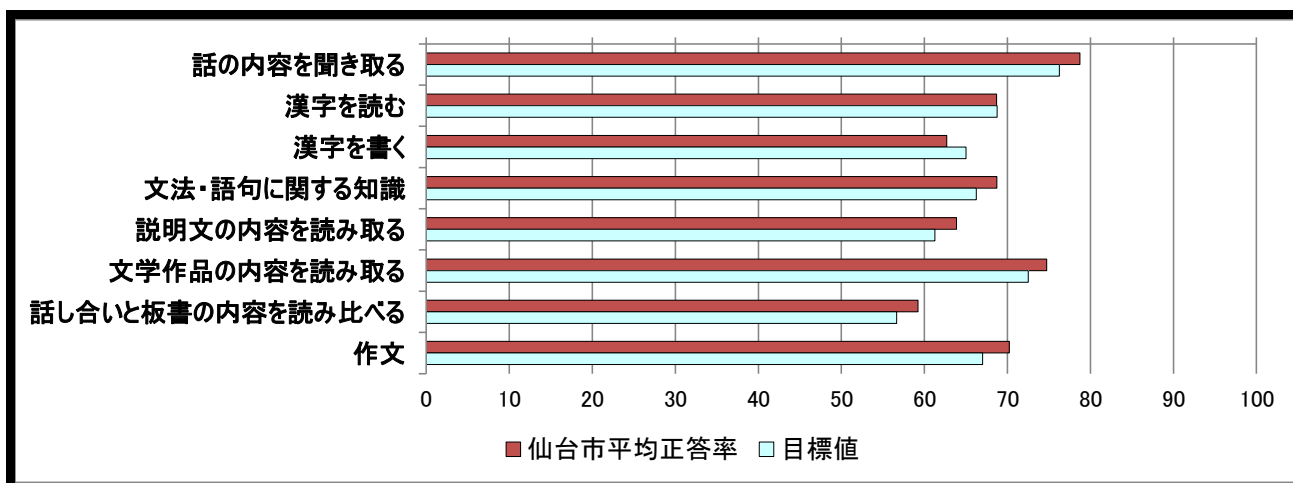
この設問では、顕微鏡の使い方が問われている。誤答分析から、始めに接眼レンズをのぞきながらピントを合わせようとする児童が全体の半数に上ることから、顕微鏡の正しい使い方が身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、一人一人に顕微鏡を操作させる活動を行うことが重要である。理科室だけでなく、教室にも数台準備しておき、プレパラートの代わりに手軽に観察できるものを準備し、児童が顕微鏡に触れる機会を意図的に多く設けるようにすることが考えられる。

## 【中学校 1 年生 国語】

### 分析結果

目標値 67.0% 市平均正答率 68.7% < 6 年生内容別正答率グラフ (%) >



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」「文法・語句に関する知識」共に目標値を 2.4 ポイント上回っている。
- ② 「文学作品の内容を読み取る」では目標値を 2.2 ポイント上回っている。
- ① 「読むこと」の「文章の内容をとらえて、それを別の事例と比べることができる」ことを見る設問では、目標値が 50.0%と低く、市平均正答率も 48.4%にとどまった。
- ② 「話し合いと板書の内容を読み比べる」では 2.5 ポイント上回っているが、「話し合いの流れを正しく読み取ったうえで、必要な情報を聞き手に伝えることができる」ことを見る設問では無解答率が 19.7%であった。必要な情報を選択し、求められている形式で書き表すことが課題である。

### 指導改善の方策

#### ① 視点に沿って文章を読み比べさせるために

この設問では、文章の内容と事例とを読み比べ、示された例に類似する事例を選ぶ力が求められる。カタクリの実の果肉はアリの餌になるが、種子は不要なものとして離れた場所に運ばれることを文章から押さえた上で、四つの選択肢の中から植物の種子が動物や昆虫の力で遠くに運ばれる事例を選択する必要がある。

指導に当たっては、文章に示された内容を正確に理解させたり、内容の相違点を明らかにしながら類似した文章を読み比べさせたりすることが必要である。

#### ② 必要な情報を選んで、適切に相手に伝えさせるために

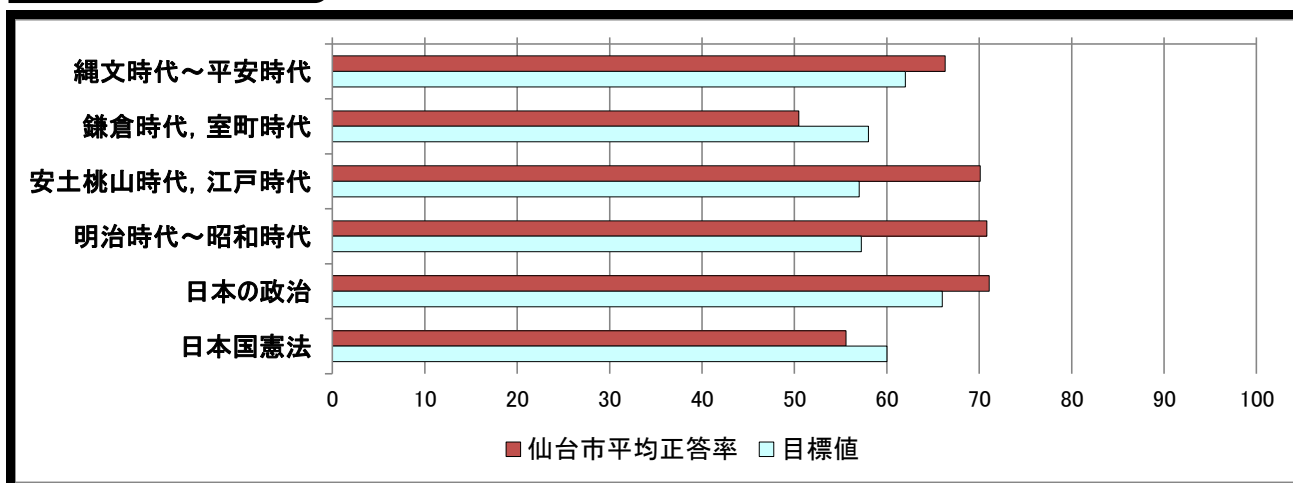
この設問では、話し合いの内容を正しく読み取り、必要な情報を選択し、もらさず伝える力が求められている。また、場面に応じて敬体と常体とを使い分けて伝える力が求められている。

指導に当たっては、中心となる話題を押さえ、理由や根拠となる内容、構成に注意させながら文章を正しく読み取らせることが必要である。また、伝え合いの学習では、聞き手を意識した話の構成や効果的な資料の提示の仕方、聞いた話の内容を簡潔にまとめる力を育むことが大切である。

## 【中学校 1 年生 社会】

### 分析結果

目標値 59.7% 市平均正答率 65.1 % < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値－5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値＋5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「安土桃山時代, 江戸時代」では目標値を 13.1 ポイント上回っている。
- ②「明治時代～昭和時代」では目標値を 13.6 ポイント上回っている。
- ③「日本の政治」では目標値を 5.1 ポイント上回っている。
- ①「鎌倉時代, 室町時代」の鎌倉幕府についての設問で、目標値を 9.1 ポイント下回っている。鎌倉幕府に関する基本的知識が定着していない課題が見られる。
- ②「日本国憲法」では目標値を 4.4 ポイント下回っている。日本国憲法の条文に関する理解に課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 鎌倉幕府の始まりを理解することができるようにするために

この設問では、鎌倉幕府の始まりについて理解しているかが問われている。年表から「平氏から源頼朝に政治の力が移った」ことから、「政治の中心が貴族から武士へと変化した」ことを関連付けて考える力が不十分だと推察される。また、鎌倉の位置を問う設問においても、市平均正答率が目標値を 9.1 ポイント下回っていることから、鎌倉幕府に関する基本的な知識が確実でないことが考えられる。

指導に当たっては、武士がどのようにして政治を動かすまでの力をつけていったのかということ、年表などの資料を活用して具体的に調べさせることが大切である。また、地図を活用し、朝廷が置かれた位置と鎌倉の距離を確認したり、鎌倉の地形を読み取ったりする活動を通して、鎌倉に幕府を開いた理由について理解を深めることが必要である。さらに、各時間の学習のまとめや単元全体を振り返る際に、キーワードを使って自分なりの言葉で文章にまとめる活動を続けることで、それぞれの出来事を点ではなく歴史の流れとして理解できるようにすることも重要である。

#### ② 日本国憲法の理解をより深めるために

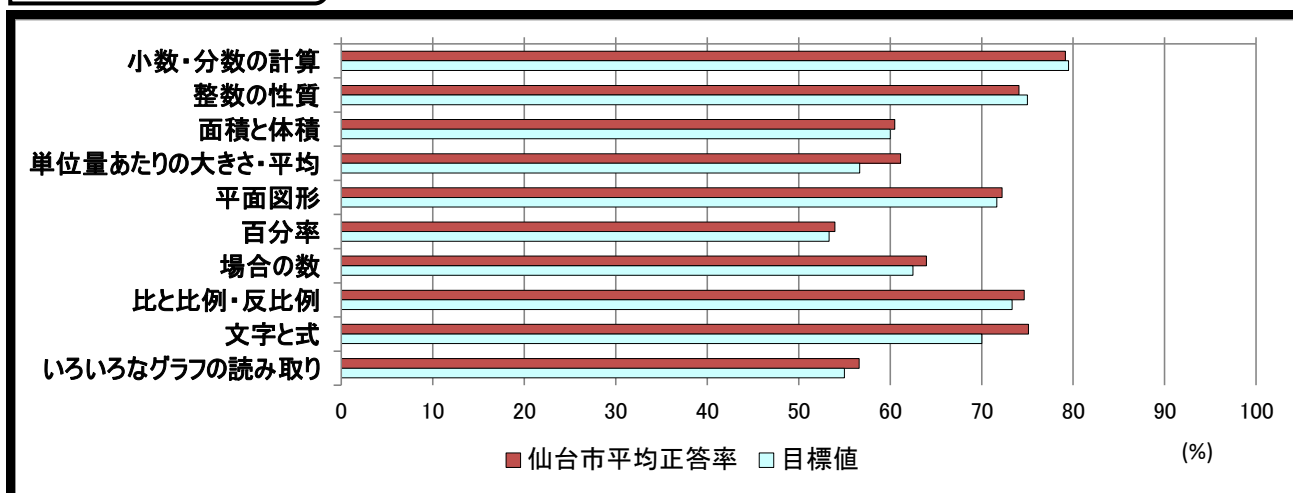
この設問では、日本国憲法の 3 原則、日本国憲法に定められた自由に対する国民の権利、天皇に関する条文の内容を理解していることが問われている。いずれも目標値を大きく下回っていることから、日本国憲法の条文に関する理解が不十分であり、国民の権利や義務に関する知識も定着していないと考えられる。

指導に当たっては、日本国憲法は国民一人一人の生活と深く結び付き、自分たちの生活を豊かにしていることを理解させることが大切である。児童にとって憲法の文言を理解することは難しいことから、生活との関わりの中から具体的な事例を取り上げながら指導することが考えられる。また、歴史学習で学んだ生活の様子と現代とを比較し、関連付けて考えさせることで、日本国憲法で守られている基本的人権の尊重の大切さを実感させていくことが重要である。

## 【中学校 1 年生 数学】

### 分析結果

目標値 68.5% 市平均正答率 69.5% < 6 年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「文字と式」では、2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問で目標値を6.0ポイント上回っており、概ね良好である。
- ① 「場合の数」では、順列を求める設問では目標値を9.6ポイント上回っているが、4種類の中から2種類選ぶときの選び方が何通りあるか求める設問（組合せ）では、目標値を6.7ポイント下回っており、起こり得る場合を落ちや重なりがないように整理して調べることによって課題が見られる。
- ② 「いろいろなグラフの読み取り」では、割合が同じでも、基にする量が異なるときは比べる量が異なることを説明する設問において、目標値を8.7ポイント下回っており、グラフの特徴を理解し、自分の考えを順序立てて説明する表現力が不十分である。

### 指導改善の方策

#### ① 落ちや重なりがないように整理して調べることができるようにするために

この設問では、具体的な事実即して、落ちや重なりがないように分類整理して順序よく列挙できるかが問われている。

指導に当たっては、「起こり得る場合を順序よく整理して調べることに重点をおく必要がある。場合の数を能率的に求めることにねらいがあるのではなく、組織的に整理しながら全ての場合を列挙する作業を通して、論理的に考える力を育成していくことが大切である。

#### ② 割合が一定のときに、基準量の大小から比較量の大小を判断するために

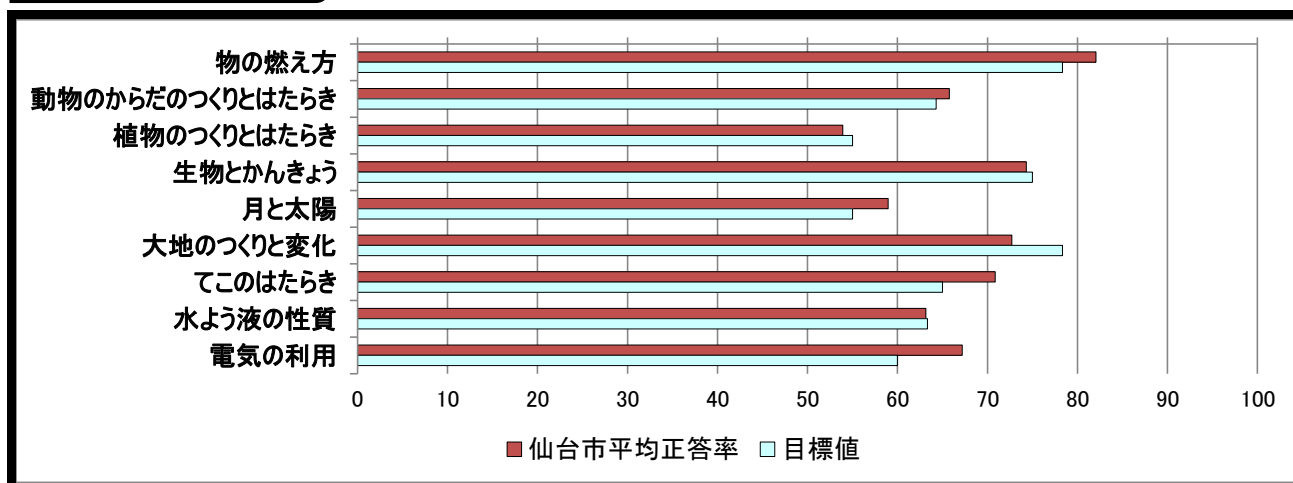
この設問では、割合が一定のときに、基準量の大小から比較量の大小を判断できるかが問われている。買い物の際に割引された金額を求めるなど、比較量を求める場合は、日常生活において数多く存在する。このとき、 $(\text{基準量}) \times (\text{割合}) = (\text{比較量})$  という関係を基に、割合が一定のときの比較量の大小を基準量の大小と関連させて判断することが必要である。

指導に当たっては、数直線図や図をかき活動を取り入れ、割合が等しいときには基準量が大きいほど比較量が大きくなることを確認することが大切である。また、グラフとも関連付けて「全体に占める割合の大きさ」の理解を深め、百分率を有効に用いることができるように指導する必要がある。

## 【中学校 1 年生 理科】

### 分析結果

目標値 65.0% 市平均正答率 66.3% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。 (○: 成果 ●: 課題)

- ① 「電気の利用」では目標値を7.2ポイント上回っている。
- ① 「水よう液の性質」では目標値を9.8ポイント下回っている設問があり、水溶液を特定する実験の方法を計画することに課題が見られる。
- ② 「植物のつくりとはたらき」では目標値を8.2ポイント下回っている設問があり、植物の体内の水の通り道についての理解に課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 水溶液の特徴や性質を理解することができるようにするために

この設問では、水溶液を特定する実験の方法について問われている。誤答分析から、食塩水と石灰水を特定する実験方法として、「加熱して水を蒸発させる」と考えた生徒が39.8%と多く見られた。また、「青色のリトマス紙につける」を選んだ生徒も23.1%と多く見られ、それぞれの水溶液の特徴や性質の理解が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、「蒸発により水溶液に溶けている物を調べる」「リトマス紙で酸性・中性・アルカリ性を調べる」「金属を溶かすかどうかを調べる」という3つの実験結果をそれぞれまとめるだけでなく、学習のまとめの段階で三つの実験結果を表などにまとめ、一つ一つの水溶液の特徴や性質をしっかりとらえさせることが必要である。

#### ② 植物の体内の水の通り道を理解することができるために

この設問では、植物の体内の水の通り道について問われている。誤答率が53.1%と高く、縦断面、横断面に関わらず、ホウセンカの茎の水の通り道がどのように通っているか、理解が不十分であることが考えられる。

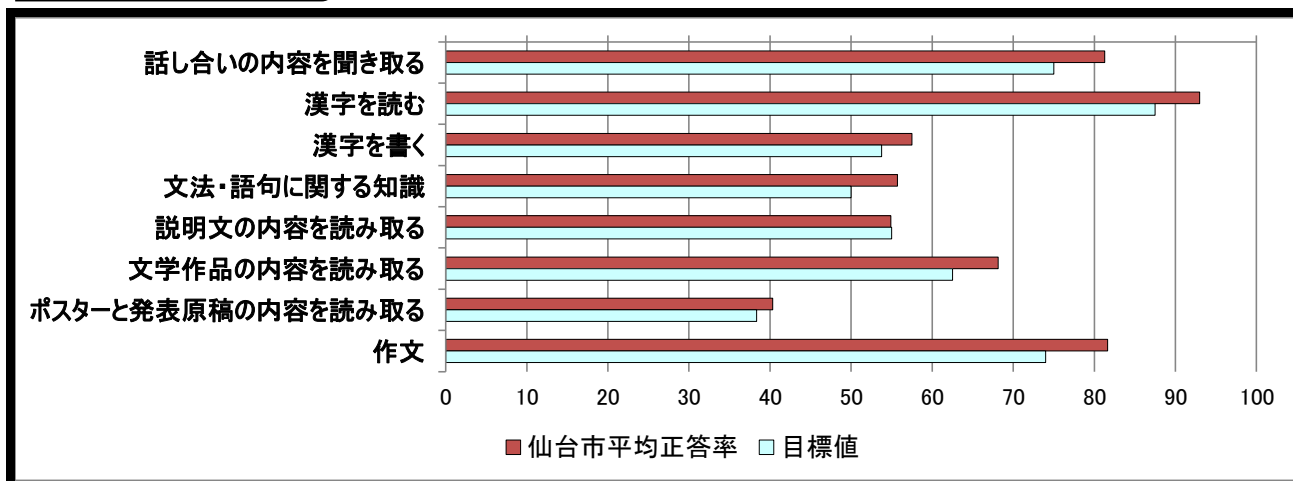
指導に当たっては、植物の体内の水の通り道をはっきりと見やすくするための観察・実験を工夫することが大切である。発展として、ホウセンカと他の植物を比較させることにより、植物の種類によって決まった水の通り道があることに気付かせることも考えられる。



## 【中学校2年生 国語】

### 分析結果

目標値 63.1% 市平均正答率 67.9% < 1年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「話し合いの内容を聞き取る」では、目標値を6.3ポイント上回っている。
- ②「漢字を読む」では、目標値を5.5ポイント上回っている。
- ③「文法・語句に関する知識」では、目標値を5.7ポイント上回っている。
- ④「文学作品の内容を読み取る」では、目標値を5.6ポイント上回っている。
- ⑤「作文」では、目標値を7.6ポイント上回っている。

- ①「文法・語句に関する知識」では、文節の関係について理解しているかどうかを見る設問で、目標値を11.1ポイント下回っている。文節どうしの関係を識別し、その中から主語と述語の関係にあるものを判断する力に課題があると考えられる。
- ②「ポスターと発表原稿の内容を読み取る」では、発表原稿の内容を正確にとらえて要旨をまとめる設問で無解答率が高い。読み取った事柄の中から中心となる情報を読み取り、要約することに課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 文節の関係について理解することができるようにするために

この設問は、文節どうしの関係を識別し、その中から主語と述語の関係にあるものについて判断する力を確かめるものである。文節どうしの関係の種類を明確にとらえていることと合わせて、主語とは述語に対して「何が」「誰が」に当たるものであることを確実に理解できていることが求められる。誤答した生徒の多くは、主語は助詞「が」「は」が付属する文節と単純に考えているものと思われる。指導に当たっては、機会をとらえて文の成分に関する知識を丁寧に指導していく必要がある。

#### ② 要旨をとらえ、適切に要約することができるようにするために

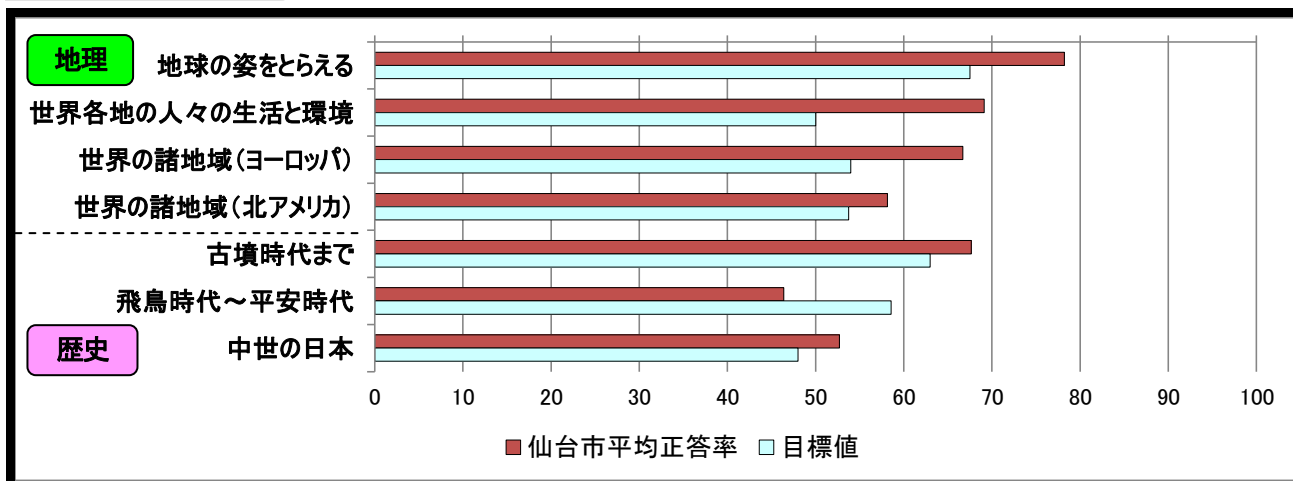
この設問は文章の内容を正確にとらえて、要旨をまとめる力が問われている。段落の役割や文章の構成を考えながら読み、指示された字数で要約しなければならないために、生徒にとっては難度が高かったようである。そのため正答は12.5%と低く、無解答率は29.4%と高い。

指導に当たっては、段落の役割や文章の構成を考えながら読むことや、中心的な部分と付加的な部分を読み分ける指導、目的に応じて字数制限を設けて要約する学習活動等を適切に設定することが必要である。

## 【中学校2年生 社会】

### 分析結果

目標値 56.7% 市平均正答率 61.0% < 1年生内容別正答率グラフ (%) >



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○: 成果 ●: 課題)

- ①「地球の姿をとらえる」では目標値を 10.7 ポイント上回っている。
- ②「世界各地の人々の生活と環境」では目標値を 19.1 ポイント上回っている。
- ③「世界の諸地域(ヨーロッパ)」では目標値を 12.7 ポイント上回っている。
- ①～③「飛鳥時代～平安時代」では目標値を 12.2 ポイント下回っており、6つの設問のうち5つについて 10 ポイント以上、下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 律令国家の確立過程と大陸との関係を理解させるために

この設問は、当時の日本の仕組みが大陸から文物や制度が取り入れられてできたという日本の古代の特色を、年表から読み取る問題である。遣隋使・遣唐使を中心に日本にもたらされた仕組みや制度が、大陸の影響を受けていることについての理解を問われている。

指導に当たっては、聖徳太子の政治、大化の改新などについて、小学校で学習した内容を有効に活用しながら、政治等の仕組みや制度を制定した背景、制定を担った人物の考え等をまとめさせることが必要である。また、大陸における中国・朝鮮の統一国家の進んだ仕組みを取り入れながら、当時の日本が天皇を中心とする律令国家の仕組みを整えたことを理解できるように指導していく必要がある。

#### ② 政治の出来事と文化の特色との関連を意識させるために

この設問では、政治の出来事中心の年表から該当する時代を判断し、その時代の文化の特色を踏まえて、その文化の代表的な資料(写真)を選択する力が求められている。誤答分析から、年表中の政治面の出来事と当時の文化の特色を結び付けられなかったことが考えられる。

指導に当たっては、政治面だけでなく、各時代の暮らしや対外関係なども文化に反映されているという、各時代の特色と文化の相互の関係を意識して授業を実践する必要がある。また、単元のまとめにおいて、時代を振り返り、多面的・多角的にその時代の特色を表現させるとともに、政治面や社会面、対外関係などが互いに関連し合っ、各時代の特色としてあらわれることを指導することも求められる。

#### ③ 平安時代の文化の特色を理解させるために

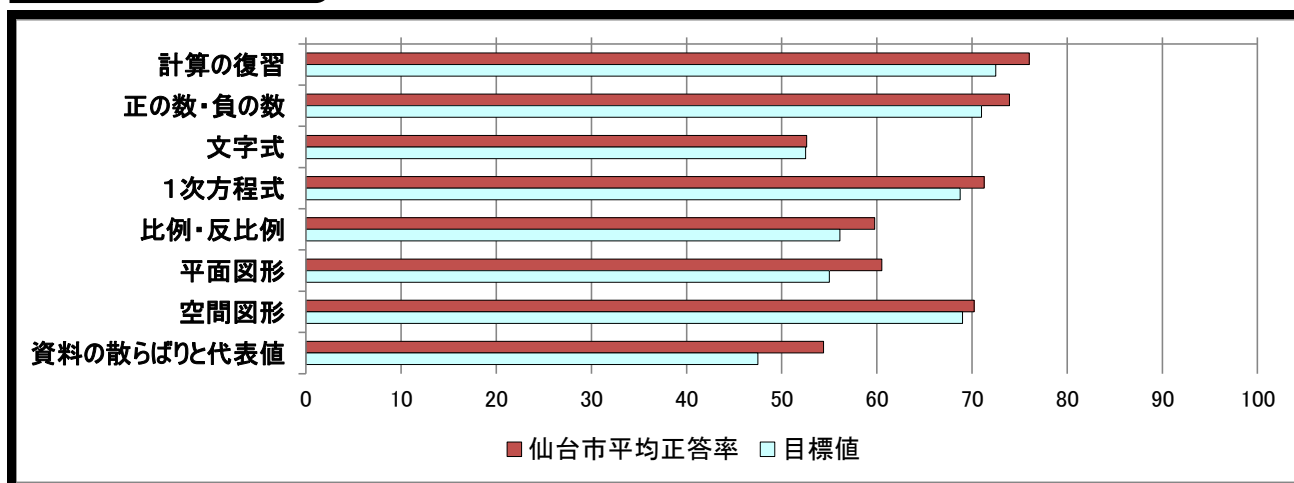
この設問は、年表中の事項が平安時代にあたることを判断し、その時代における文学作品の特徴について、理解しているか問う問題である。

指導に当たっては、平安時代の文化について学習した後、女性の文学、貴族の生活、かな文字等について、自分の言葉で記述し、まとめさせるなどの工夫が必要である。また、古典に親しむ観点から、当時の時代背景を理解させた上で、源氏物語や枕草子等の世界に誇れる日本文学について実際の作品に触れさせることも考えられる。なお、文化の学習については、各時代の背景等を踏まえて、その内容や特色を押さえるという流れで指導を行うことが必要である。

## 【中学校2年生 数学】

### 分析結果

目標値 60.1% 市平均正答率 63.5% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「正の数・負の数」では目標値を2.9ポイント、「1次方程式」では2.5ポイント、「比例・反比例」では3.7ポイント、「平面図形」では5.5ポイント、「資料の散らばりと代表値」では6.9ポイント上回っている。
- ①「文字式」では、分子が1次式である分数の加法についての設問で、目標値を7.0ポイント下回っている。
- ②「空間図形」では、球の体積を求める式を選ぶ設問で、目標値を2.9ポイント下回っている。空間図形についての理解に課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 文字式と方程式の解き方の違いを理解するために

この設問は、分子が1次式である分数の加法ができることをねらいとしている。誤答例として、計算の過程で分母をはらい「 $11a+1$ 」と解答している生徒が20.3%にも上っている。これは、1次方程式を学習した際に、分母をはらって解を求めることを学習しており、それと混同していることが原因と思われる。

指導に当たっては、1次方程式を学習した後、文字式と方程式を並列して比較させることによって、その違いを理解させることが必要である。また、誤答例を示して計算過程の修正を行うなど、丁寧な指導することが重要である。

#### ② 円柱と球の体積の関係について理解をより深めるために

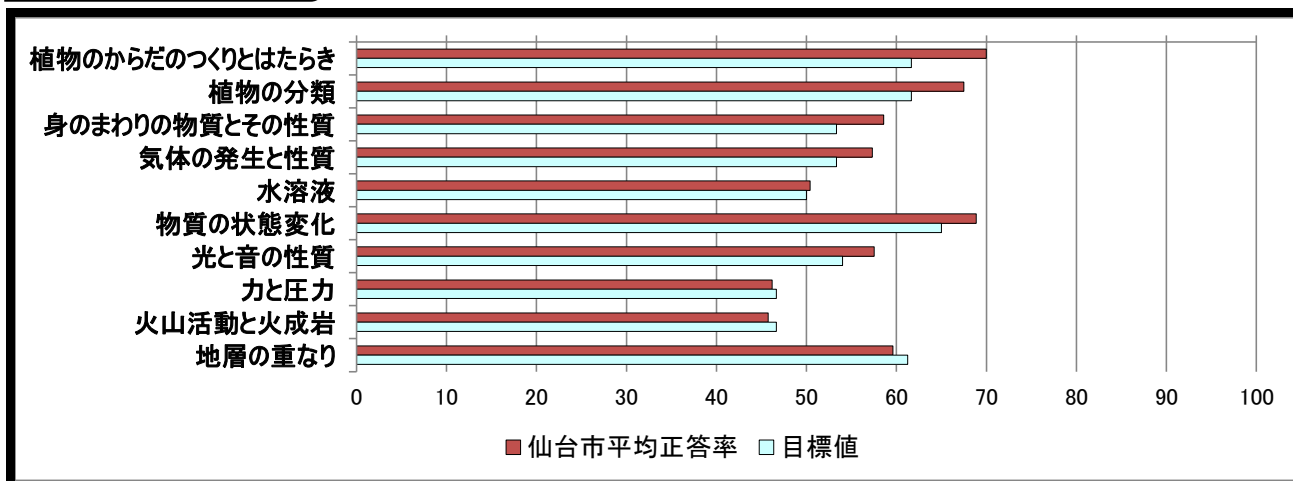
この設問では、球の体積を求める公式が知識として確実に定着し、利用することができるかが問われている。誤答例を見ると、球の体積を求める公式を確実に覚えていないと思われる生徒が20.2%、球の表面積を求める公式と混同している生徒が16.1%となっている。その原因として、公式の導き方を、実感を伴って理解する機会が少ないことが考えられる。

指導に当たっては、単に公式を暗記させるのではなく、立体説明用教具などを積極的に活用したり、生徒自らが計算によって公式を導いたりする活動を取り入れるなど、丁寧に指導していくことが大切である。

## 【中学校2年生 理科】

### 分析結果

目標値 55.9% 市平均正答率 59.1% <1年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である (○: 成果 ●: 課題)

- ① 「植物のからだのつくりとはたらき」では、目標値を 8.3 ポイント上回っている。
- ② 「植物の分類」では、目標値を 5.8 ポイント上回っている。
- ③ 「身のまわりの物質とその性質」では、目標値を 5.3 ポイント上回っている。
- ④ 「光と音の性質」の光源を動かしたときの実像の様子の変化を問う設問では、目標値を 14.0 ポイント下回っている。
- ⑤ 「植物のからだのつくりとはたらき」の設問の中で、酸素の発生が植物の働きによることを確かめるための対照実験を設定できることを問う問題では、目標値を 4.3 ポイント下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 実像の変化に関する現象をとらえさせるために

この設問では、光源を動かしたときの、実像の様子の変化について問われている。誤答分析から、光源からレンズまでの距離と、レンズからスクリーンまでの距離、実像の大きさとの関係性について、理解していないことが考えられる。

指導に当たっては、実像の変化を調べる実験において、教師から与えられた条件下で凸レンズとスクリーンの距離と実像の大きさを観察させることだけにとどまらず、目的意識を持った実験を通して、実像の変化に関する現象をとらえさせる指導が大切である。

#### ② 対照実験を行う際の条件制御の考え方を身に付けさせるために

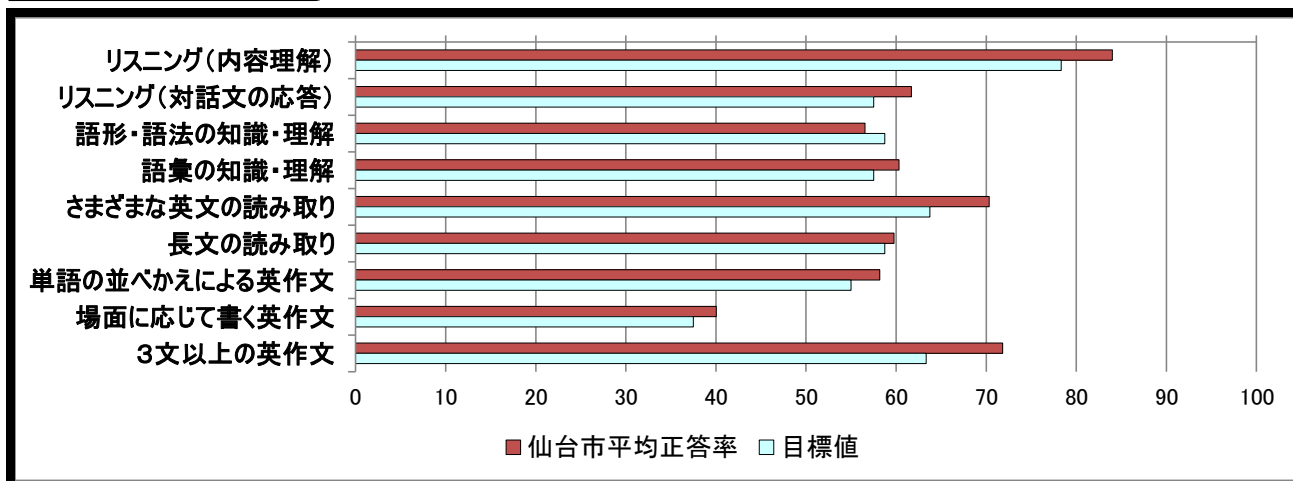
この設問は、酸素の発生が植物の働きによることを確かめるための対照実験を設定できることをねらいとしている。酸素の発生が水草の働きによることを確かめるための実験を選択する必要があるが、「水草の働き」＝「光合成」ととらえ、光の有無の対照実験である解答を選ぶ生徒が多く見られたことから、対照実験の意味や対照実験を行う際の条件制御の考え方が、十分に身に付いていないことが考えられる。

指導に当たっては、酸素の発生源が水草であるかどうかを調べるためには、要因と思われる条件（この場合は水草）だけを変え、他の条件（光や二酸化炭素の有無）は変えないといった対照実験の基本的な考え方を繰り返し指導していくことが大切である。

## 【中学校2年生 英語】

### 分析結果

目標値 61.1% 市平均正答率 64.8% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「リスニング(内容理解)」では目標値を5.7ポイント上回っている。
- ② 「さまざまな英文の読み取り」では目標値を6.5ポイント上回っている。
- ③ 「3文以上の英作文」では目標値を8.5ポイント上回っている。
- ① 「語形・語法の知識理解」では目標値と同等であるが、対話文における語形選択で、現在進行形の疑問文では13.2ポイント、一般動詞の過去の疑問文では6.0ポイント目標値を下回っている。文の意味を読み取り、文法事項を理解して、正しい語形を選択することが課題である。
- ② 「長文の読み取り」では目標値と同等であるが、「メールの内容をふまえて、返事を書くことができる」ことを見る設問では、目標値を9.5ポイント下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 現在進行形・過去形の疑問文を理解し、活用できるようにするために

この設問では、対話文の意味を読み取り、文法事項(現在進行形・過去形の疑問文)を理解して、正しい語形を選択することが求められている。誤答分析から、問いの文に対する答えの文にある動詞に惑わされていることが懸念される。また、語形・語法の基本的な部分はおさえているものの、疑問文にした際の文構造が理解できていないことも考えられる。

指導に当たっては、文法事項の定着を図るための反復学習だけでなく、場面をイメージしながら既習の文法事項を活用し、英語を運用する力を育成していくことが重要である。そのためには、場面に合ったまとまりのある会話を考え、表現させる機会を設けることが必要である。また、活動の中で、現在進行形や過去形の疑問文や応答文を用いて、文法事項の復習を合わせて行うことも必要である。

#### ② 長文を読み取り、適切に英語で表現することができるようにするために

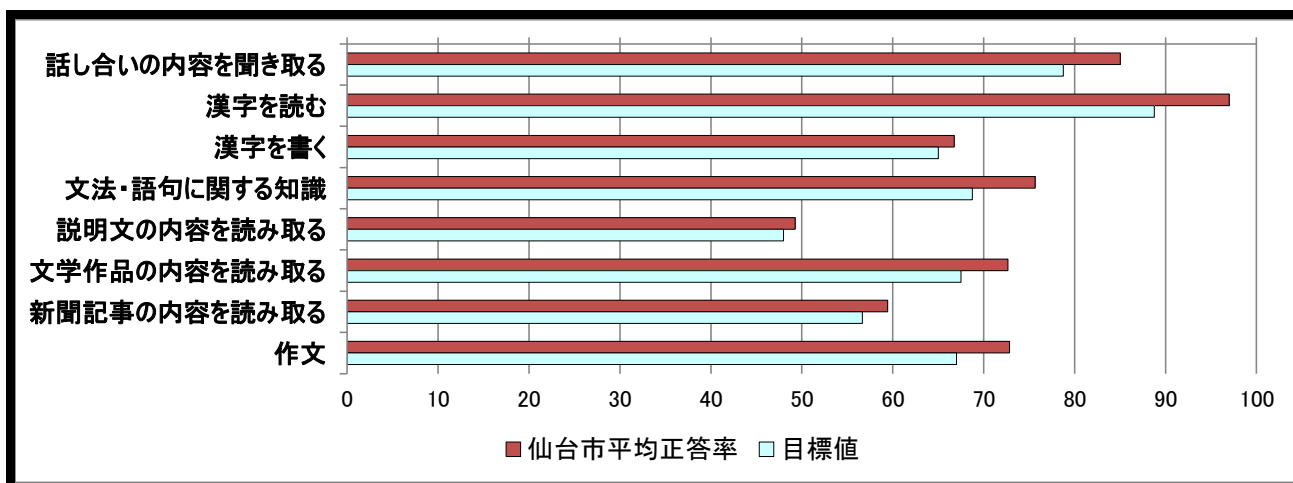
この設問では、電子メールの内容を読み取り、返信メール中の( )に、適切な「2語以上の英語」で解答することが求められている。市平均正答率は20.5%にとどまり、無回答率は26.5%である。この結果から、日常的な場面設定において、与えられた情報を理解し、既習事項を応用して適切な英語で表現することを苦手としていることが考えられる。

指導に当たっては、読み取った内容をもとに作文させるなどの統合的な活動を行わせることが必要である。また、生徒が書いた英作文を教師が添削し、適切な英作文を書けるように繰り返して指導をすることが大切である。

## 【中学校3年生 国語】

### 分析結果

目標値 67.3% 市平均正答率 72.0% < 2年生内容別正答率グラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「話し合いの内容を聞き取る」では目標値を6.2ポイント上回っている。
- ②「漢字を読む」では目標値を8.2ポイント上回っている。
- ③「文法・語句に関する知識」では目標値を6.9ポイント上回っている。
- ④「文学作品の内容を読み取る」では目標値を5.2ポイント上回っている。
- ⑤「作文」では目標値を5.8ポイント上回っている。
- ①「説明文の内容を読み取る」では文章の展開に即して内容をとらえる設問で目標値を7.4ポイント下回っている。全体から部分へ情報を絞り込む読み方に課題があると考えられる。
- ②「新聞記事の内容を読み取る」では読み取った内容をまとめる設問で目標値を1.0ポイント下回っている。また、無解答率も高く、必要な情報を制限字数内で要約する力に課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 文章の展開に即して内容をとらえることができるようにするために

この設問では「文章の展開に即して内容をとらえる」力が問われている。誤答分析から、文章全体から部分へ、情報を絞り込んで読むことが難しかったことが考えられる。

指導に当たっては、文章全体を大きなまとまりに分け、分けたまとまりごとに小見出しを付けて読む活動を行うなど、改善を図る必要がある。

#### ② 新聞記事の内容を読み取り、その内容をまとめることができるようにするために

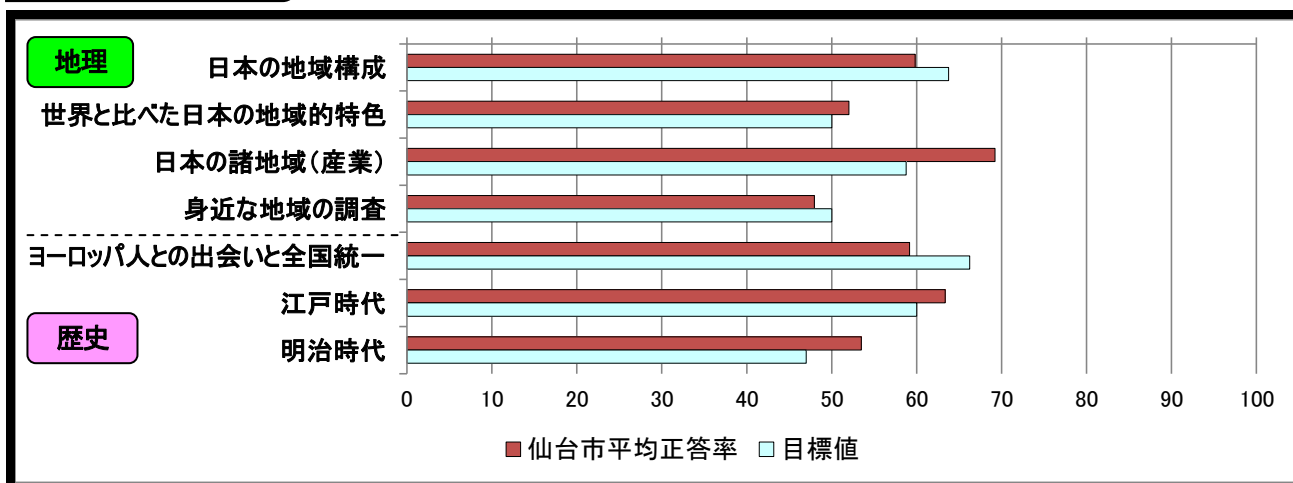
この設問では「新聞記事の内容を読み取り、その内容をまとめる」力が問われている。

指導に当たっては、段落ごとのキーセンテンスを確かめ、他の段落や文との関係を押さえて要約する力を育成していくことが必要である。

## 【中学校3年生 社会】

### 分析結果

目標値 56.7% 市平均正答率 58.5% < 2年生内容別正答率グラフ (%) >



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○: 成果 ●: 課題)

- ① 「日本の諸地域(産業)」では目標値を10.4ポイント上回っている。
- ② 「明治時代」では目標値を6.5ポイント上回っている。
- ① 「日本の地域構成」では目標値を4.0ポイント下回っている。
- ② 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」では目標値を7.1ポイント下回っており、4つの設問全てで目標値を下回っている。
- ③ 「江戸時代」では、新しい学問と幕府の関係を問う設問において、目標値を14.1ポイント下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 日本の国土と同緯度、同経度にある世界の主な国々の名称と位置を理解させるために

この設問では、日本の国土の範囲と、世界の主な国の名称と位置、緯度の理解という基礎的・基本的な知識が求められている。

指導に当たっては、緯度と経度、緯線と経線の違いを正しく理解させ、それぞれの活用の仕方について繰り返し指導し、緯線と経線を地図や地球儀で確実に確認させることが求められる。また、日本の国土と同緯度、同経度にある世界の主な国々の名称と位置については、2学年の「ア日本の地域構成」で初めて取り上げるのではなく、1年生の時点から計画的に指導することが重要である。

#### ② 安土桃山文化(桃山文化)の特色を理解させるために

この設問では、安土桃山文化(桃山文化)の特色と、その時代の政治面での代表的な人物とを関連付けて理解しているかが問われている。無解答率が高かったことから、基礎的な知識の定着がなされていないことが分かる。

指導に当たっては、織田信長や豊臣秀吉が行った政策を取り上げる中で、戦国から安土桃山時代にかけての大名や豪商の趣向についてもとらえさせる必要がある。当時の時代背景を踏まえた上で、建てさせた城の特徴や芸術作品、大成されたものを資料などで確認させながら、安土桃山文化(桃山文化)の特色について、自分の言葉で説明させるなどして、知識の定着を図ることが大切である。

#### ③ 江戸時代に発達した学問や思想と政治への影響を理解させるために

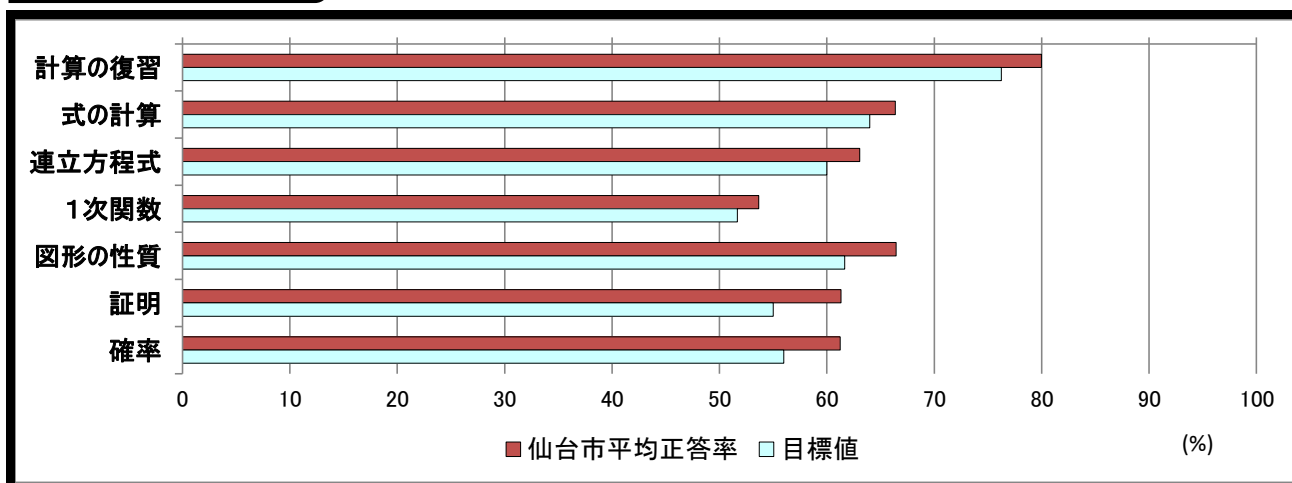
この設問は、江戸時代に発達した学問について特徴を押さえ、その特徴に当てはまる解答を「後の幕府に批判」という条件を踏まえながら全て抽出するという難易度の高い問題である。誤答分析から、国学や蘭学が後の幕府批判につながるようになるという理解が十分ではなかったと考えられる。

指導に当たっては、江戸時代に限らず学問や思想を教える際、名称や特徴の確認で終わらないようにすることが必要である。特に、江戸時代に盛んになった学問は多いため、朱子学、和算、実学、藩校での教育、国学、蘭学(のち洋学)等の特徴を押さえさせるだけでなく、当時の人々や社会への影響という側面からの理解を深めることが大切である。

## 【中学校3年生 数学】

### 分析結果

目標値 59.4% 市平均正答率 62.9% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「連立方程式」では目標値を3.1ポイント、「図形の性質」では4.8ポイント、「証明」は6.3ポイント、「確率」は5.2ポイント上回っている。
- ① 「式の計算」では、文字式を用いて説明する設問で、無解答率が52.8%と高くなっている。文字式を使って説明することに課題が見られる。
- ② 「1次関数」では、座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求める設問で、目標値を5.4ポイント下回り、無解答率も38.4%と高くなっている。座標軸上から課題を解決するために必要な情報を読み取ることに課題が見られる。

### 指導改善の方策

#### ① 文字を用いた式を使って説明することができるようにするために

この設問では、2けたの自然数とその数の十の位の数と一の位の数を入れ替えた数の和が11の倍数になることを、文字を用いた式を使って説明することをねらいとしている。無解答率が52.8%と半数を超えており、数学的な事象について、文字を用いた式を使って説明することを苦手としている生徒が多いことが考えられる。

指導に当たっては、帰納や類推によって成り立つ事柄を予想させ、文字を用いた式を使って説明する必要性や意味を理解させることが大切である。また、理由を説明するための見通しをもたせたり、式の意味を考えさせたりすることや、数学的な事象について、文字を用いる様々な場面を設定し、継続的に指導していくことも重要である。

#### ② 1次関数のグラフから図形の面積を求めることができるようにするために

この設問では、原点と座標軸上、直線 $l$ 上に頂点をもつ三角形の面積を求めることをねらいとしている。目標値に対し5ポイント以上下回り、無解答率も高い。その原因として、課題を解決するために必要な情報を読み取ることができないこと、関数のグラフと図形を関連付けて考える機会が少ないことが考えられる。

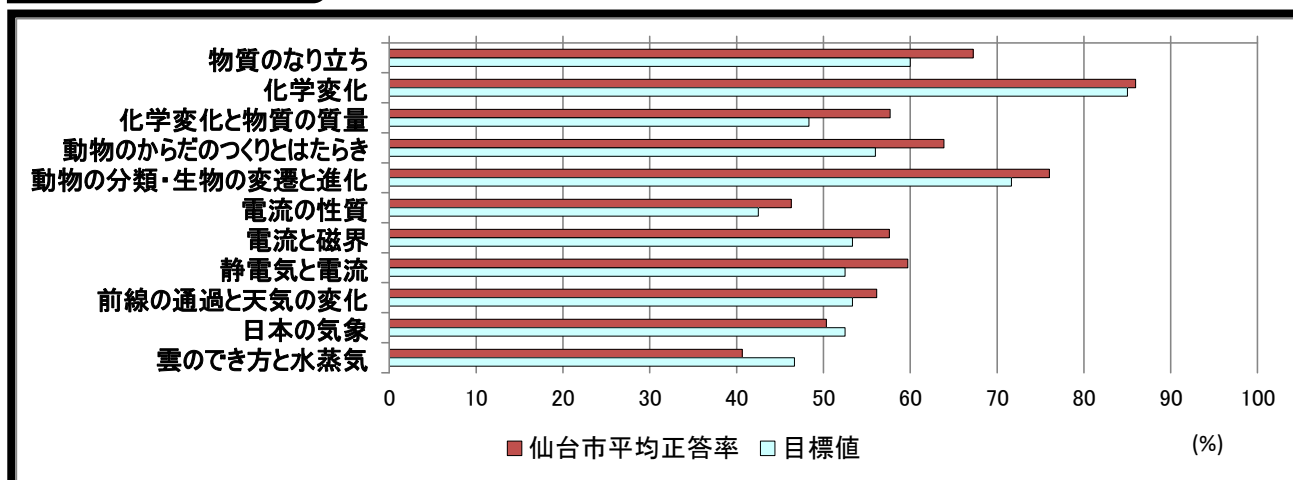
指導に当たっては、グラフ上の座標の読み取りを丁寧に行うことが大切である。また、関数のグラフと図形を関連付けて考えさせ、課題を解決するための思考過程を言葉で説明する活動を設定することが必要である。三角形の面積を求めるのに必要な情報は何かということ、授業の中で説明し伝え合う活動を取り入れるようにしたい。



## 【中学校3年生 理科】

### 分析結果

目標値 55.5% 市平均正答率 59.5% < 2年生の内容の正答率のグラフ>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①～④「物質のなり立ち」では目標値を7.3ポイント、「化学変化と物質の質量」では9.4ポイント、「動物のからだのつくりとはたらき」では7.9ポイント、「静電気と電流」では7.2ポイント上回っている。
- ①「動物のからだのつくりとはたらき」の血管と血液中の物質についての設問では、誤答が正答を上回っている。
- ②「電流の性質」の電力量を求める設問では、目標値を11.4ポイント下回っている。
- ③「雲のでき方と水蒸気」では目標値を6.0ポイント下回っている。また、雲のでき方をモデル実験で検証する設問では、目標値を15.9ポイント下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 血液循環を各臓器の働きと関連させて総合的に理解させるために

この設問では、肺動脈と大動脈を流れる血液の性質の違いが問われている。誤答分析から、心臓から流れ出る血管を「動脈」ということは理解しているが、すべての動脈には酸素の多い「動脈血」が流れていると間違っていて認識している生徒が多いことが考えられる。

指導に当たっては、各臓器の働きと関連させ、物質がどのように移動していくかを説明する力を育成していくことが大切である。

#### ② 学習した内容を実生活の中で活用する能力を身に付けさせるために

この設問では、家庭の電気器具の使用時間を減らすことで節約できる電力量を求めることが問われている。目標値を下回った要因として、生徒にとってJ(ジュール・熱量)やkWhという単位は、実生活の中で触れる機会が少なく、学習した内容を活用できていないことが考えられる。また、Jの計算では時間の単位を秒に換算することにも課題が見られる。

指導に当たっては、公式を教えることだけにとどまらず、学習した内容を使いこなす能力を育成していくことが大切である。例えば、自宅の1か月あたりの消費電力量や、主な家庭用電気器具の消費電力を確認し、実生活と関連付けて指導していくことが必要である。特に、Jは普段の生活の中ではあまり使われない単位であるが、科学では電力量だけではなく熱量やエネルギー、仕事の単位として広く使われているため、その概念をしっかりと育成していくことが重要である。

#### ③ 大気中の水蒸気が凝結する現象を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解させるために

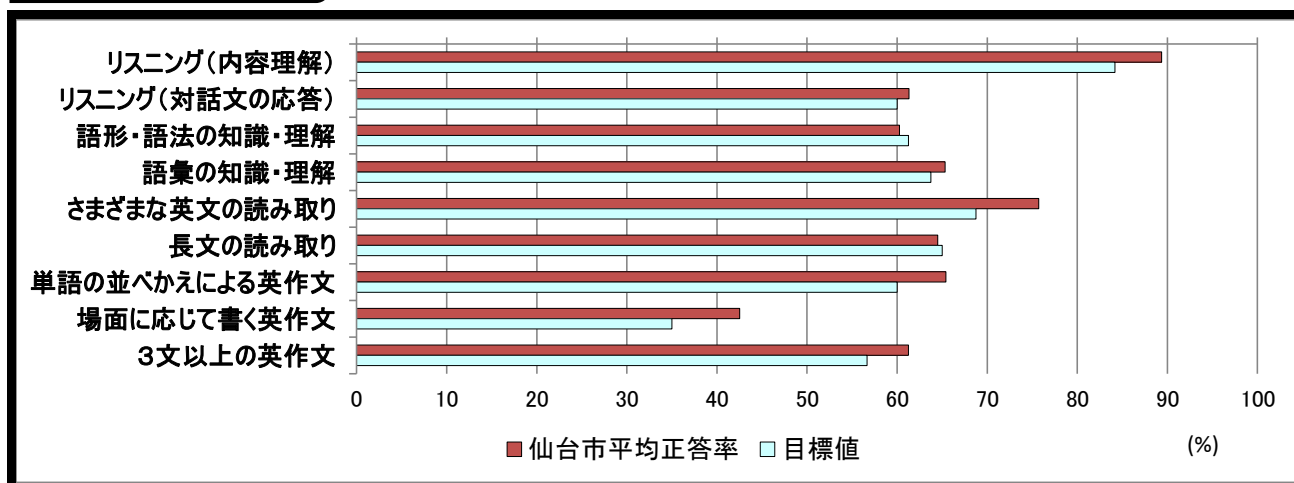
この設問では、雲のでき方をモデル実験で検証できることが問われている。凝結の様子を観察する装置は、構造によって加圧や減圧の操作が異なるが、誤答分析から、装置の操作を通し、加圧した場合は温度が上がり、減圧では温度が下がるといった基本的な現象について、実感を伴って理解していないことが考えられる。

指導に当たっては、モデル実験の装置の操作方法により、装置内の空気の体積や圧力がどのように変化するかを理解していることが重要である。したがって、簡易真空装置やフラスコなど、様々なタイプがあるモデル実験の装置で、どのような操作をすると空気が膨張するのかを視覚的に理解できるように指導する必要がある。また、「空気が膨張する → 気温が下がる → 露点に達して水蒸気が凝結する → 雲ができる」という一連の現象(要因と結果)を順序立てて説明させる活動を取り入れることが大切である。

## 【中学校3年生 英語】

### 分析結果

目標値 64.6% 市平均正答率 67.9% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「リスニング(内容理解)」では目標値を5.2ポイント上回っている。
- ② 「さまざまな英文の読み取り」では目標値を6.9ポイント上回っている。
- ③ 「単語の並べかえによる英作文」では目標値を5.4ポイント上回っている。
- ④ 「場面に応じて書く英作文」では目標値を7.5ポイント上回っている。
- ① 「語形・語法の知識・理解」では目標値と同等であるが、不定詞の理解を求める設問では、目標値を12.1ポイント下回っている。文の意味や文構造を正しくとらえることに課題があると考えられる。
- ② 「長文の読み取り」では目標値と同等であるが、「スピーチの内容をふまえた感想を書くことができる」ことを見る設問では、目標値を15.2ポイント下回っている。

### 指導改善の方策

#### ① 語形・語法を理解することができるようにするために

この設問では、不定詞の語形・語法の理解が問われている。「なぜコンピュータを使用するのか?」というWhyを用いた問いに対して、「音楽を聴くため。」と答える際に適切な語として、Becauseを選択する生徒が多く見られた。Why〜?で質問されたことにBecause〜で答えることが定着している一方、不定詞を用いた答え方を考えたり、文構造を正しくとらえたりすることについては課題があると考えられる。

指導に当たっては、新出文構造に焦点化した練習だけを行うのではなく、様々な既習事項を組み合わせた練習や実際の使用場面を想定した言語活動を計画的に行い、総合的な英語力を身に付けさせることが大切である。また、実際に自分の考えで英語を使う場面を十分に確保する必要がある。

#### ② 長文を読み取り、適切に表現できるようにするために

この設問では、スピーチの内容をふまえた感想を書くことができることをねらいとしている。仙台市平均正答率は目標値を15.2ポイント下回った。誤答分析から、時制を考えなかったり、適切な動詞を見つけられなかったりした生徒がいたと推測する。また、alsoの意味や解答に動詞が入ることが理解できず、適切な単語を記述できなかったと推測する。

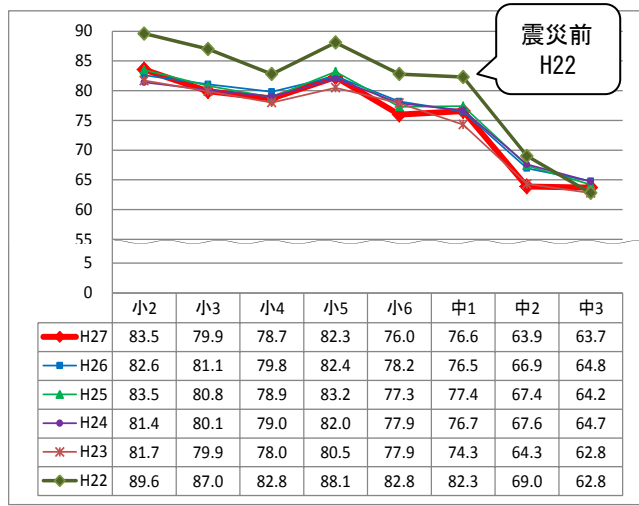
指導に当たっては、長文の読み取りを丁寧に進める中で、英語の時制を確実に理解させることが重要である。現在・過去という言葉だけで理解させるのではなく、英語における現在時制・過去時制の表している意味を考えさせ、図を使いイメージをもたせながらとらえさせることが大切である。また、主語と動詞(述語)の組み合わせを確実におさえさせることが必要である。

【分析結果 1】

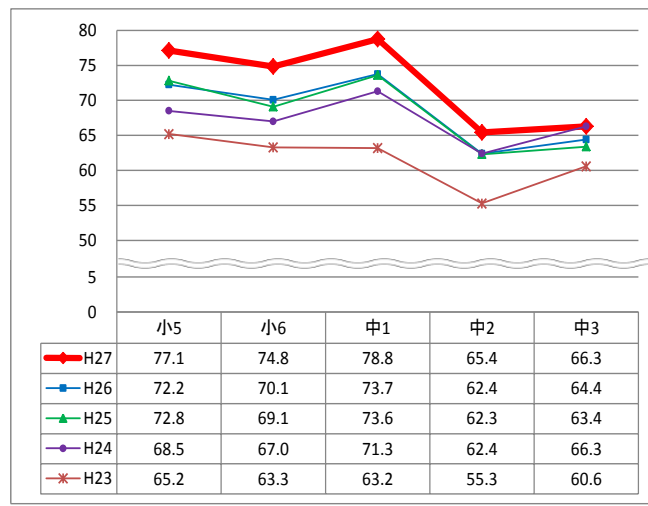
「自分の将来を考えると、楽しい気持ちになる」と答えた児童生徒の割合は、震災後減少し、今も同じ傾向が続いている。

一方、将来の可能性を広げるために、勉強を頑張っている児童生徒は増加し続けている。

【71】自分の将来を考えると、楽しい気持ちになる。



【73】将来の可能性を広げるために、勉強を頑張っている。



改善のポイント

将来に対して前向きにとらえるきっかけとなる活動を生かしましょう。

□指導改善の方策

○仙台自分づくり教育における体験活動の充実

小学校で行われている「自分づくり夢教室」「スチューデントシティ」での学習や中学校で行われている「職場体験活動」「ファイナンスパーク」での学習などをきっかけとして、自分の夢・目標・将来について考える機会を設けるようにする。

○活動の振り返り

体験活動だけで終わるのではなく、活動を振り返るとともに、学習したことが自分の夢・目標・将来につながっていることに気付かせることで、学習意欲の向上を図るようにする。

○児童生徒が意欲的に学校生活を過ごすことができる学級・学年づくり

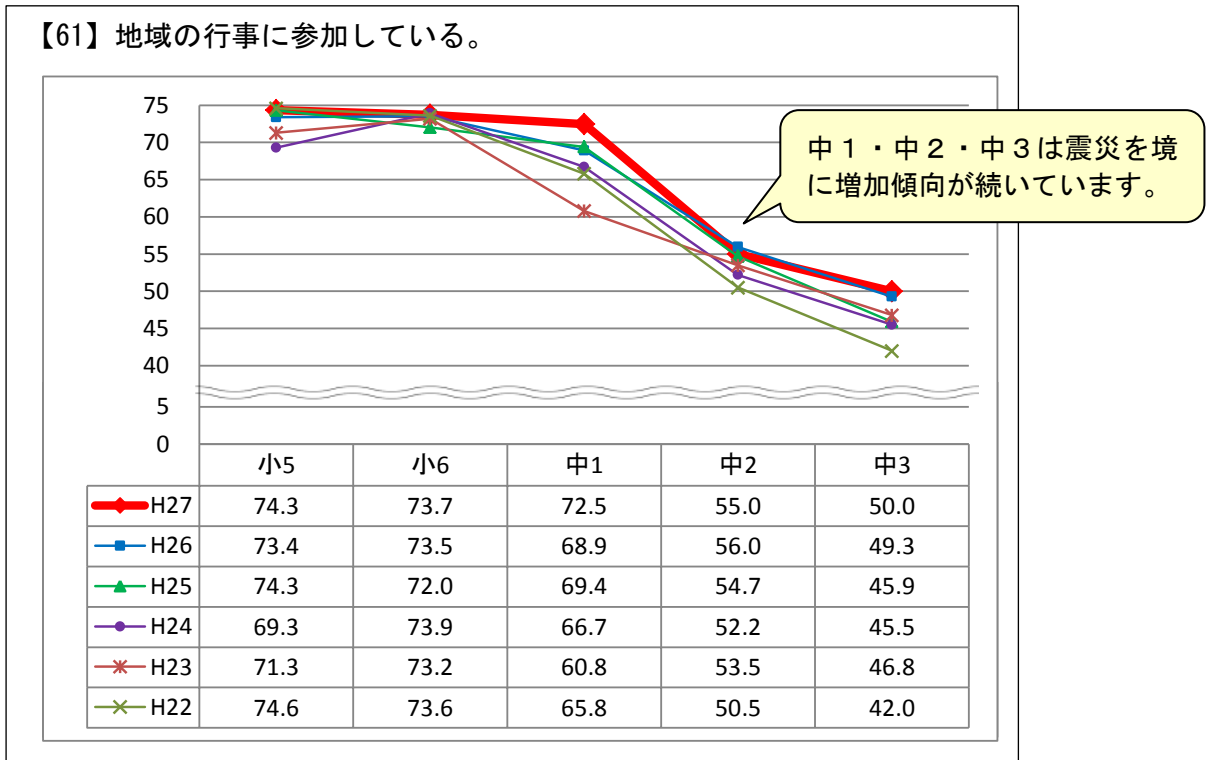
「たく生き」の授業プランを活用するなど、児童生徒が安心して自己表現ができるような学級・学年づくりを行い、児童生徒が学習活動等に主体的に取り組んだり、前向きな気持ちで学校生活を過ごしたりすることができるようにする。

☆ご家庭では☆

設問 72 「自分の将来について、家の人と話し合っている。」と答えた児童生徒（小学2年～中学3年）が 60%を超えていることから、将来のことを話題にする機会は多いことと思います。お子さんの将来のことを一緒に考えたり、学年相応のアドバイスをしたりすることで、お子さんが将来に向けて前向きな気持ちになれるように支援してください。

【分析結果 2】

地域の行事に参加している児童生徒が増えている。



改善のポイント

地域・町内の一員として活躍の場を持たせ、進んで地域・町内とかかわるようにしましょう。

□指導改善の方策

○児童生徒が「参加」から「参画」する行事へ

地域の子供会では、最上級生の小学6年生が子供会をまとめているところが多く、小学校卒業を一区切りとしているため、中学校進学後に参加できる地域の行事に限られる傾向がある。活躍の場を持たせるために、児童生徒の実態に応じて、地域の行事に対して、「参加」から「参画」できるような取組ができるように地域の方々と相談しながら展開を図るなど、工夫するようにする。

○地域とかかわる活動の場を広げる

設問 17「世の中で、自分に何ができるかを考えることがある。」と答えた児童生徒（小学5年～中学3年）が約65%、設問 62「地域の中で知っている人に会った時は、あいさつをしている。」と答えた児童生徒が、全学年で90%以上いたことが分かった。この結果から、地域とかかわりを大切にしようとする児童生徒が多いことがうかがえる。児童生徒と地域とのつながりをつくっていくために、生徒会等で行っているボランティア活動を広げたり、部活動単位で地域とかかわりをもつ活動の場を広げたりするなど、工夫するようにする。

☆ご家庭では☆

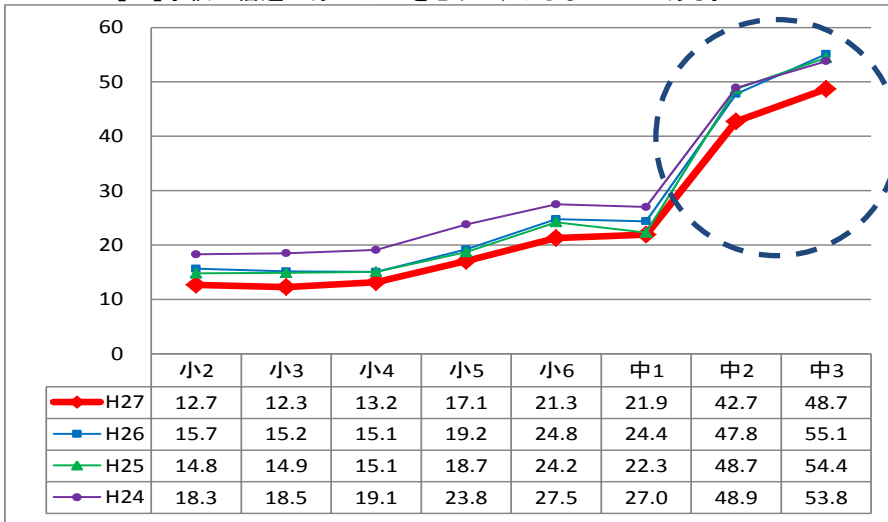
子供会・町内会などの行事や地域の防災訓練等に、家族で参加し、地域の一員であることに気付かせるようにしてください。また、お子さんにあいさつの大切さを声掛けしたり、あいさつができているときには褒めたりするなど、お子さんが地域の方々と進んで触れ合い、よりよい関係を築けるようにしてください。

【分析結果 3】

平成 24 年度以降，学校の宿題があったことを忘れて，やらないことがある児童生徒が減少している。

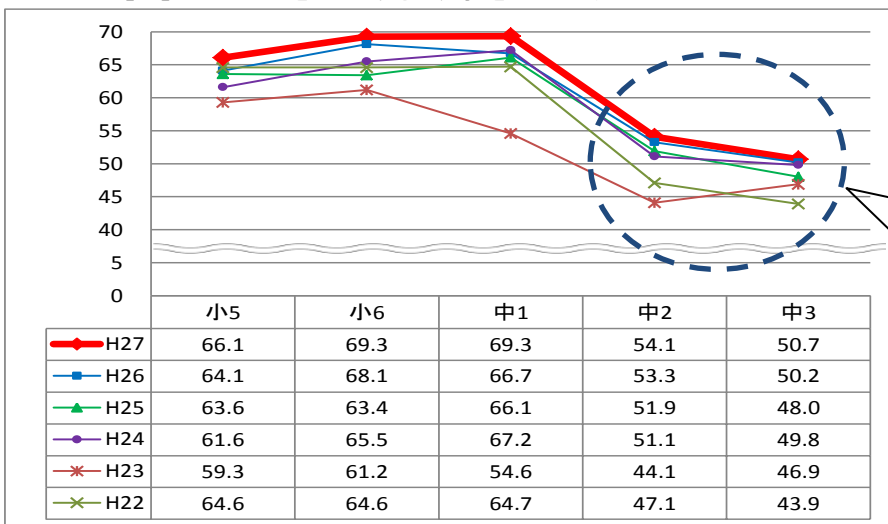
同様に，自分で計画を立てて，家で勉強をしている児童生徒が増加し続けている。

【52】学校の宿題があったことを忘れて，やらないことがある。



中学 2 年生・  
中学 3 年生では，宿題をやらないことがある生徒が増える傾向が見られます。

【51】自分で計画を立てて，家で勉強をしている。



中学 2 年生・中学  
3 年生では，5 割程度に減少する傾向が見られます。

改善のポイント

個に応じた適切な目標を立て，計画的に学習し，学習意欲を高めていきましょう。

□指導改善の方策

○適切なフィードバック

宿題については，小学校と中学校での目的・内容・量の違いを踏まえ，実態に合わせて実施し，児童生徒への適切なフィードバックをすることで学習意欲を高めていくようにする。

○計画的な家庭学習の推進

家庭学習を十分に出来るようにするために，生徒自身が自分の課題を認識して目標を立て，改善のための「学習計画」を立てさせていくことで，家庭学習の習慣化を図るようにする。

☆ご家庭では☆

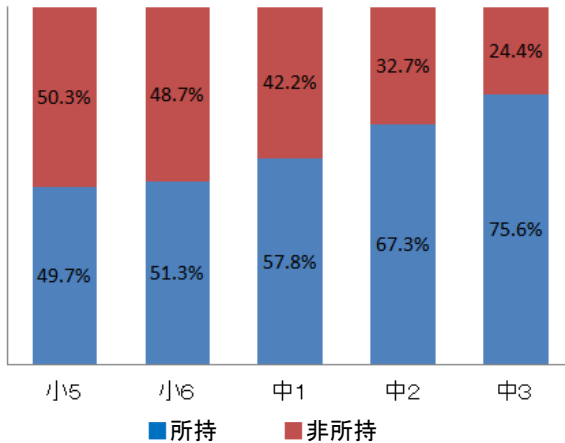
小学校の宿題は，学校で習ったことの復習（内容によっては予習）と，家庭学習の習慣付けになります。お子さんが宿題で悩んでいるときは適切なアドバイス等をしたり，家庭学習の習慣が付くまで根気強く声掛けしたりしてください。

中学生のお子さんがあるご家庭は，家庭での学習時間が適切に確保できているかどうか，今一度生活スタイルを見直し，進んで学習に取り組むことができる学習環境を整えるようお願いいたします。

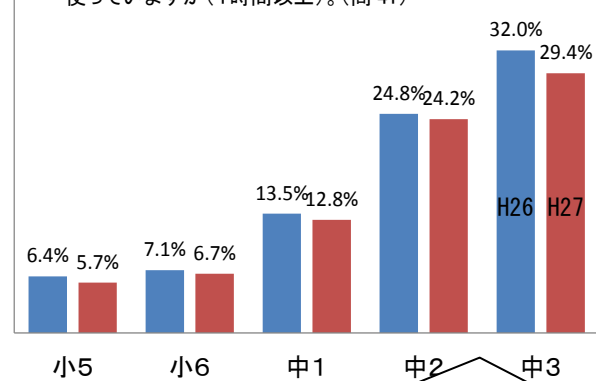
## 【分析結果 4】

学年が上がるにつれて、携帯電話・スマホの所持率が上がり、使用時間も長くなる。  
 学年が上がるにつれて、“ながらスマホ（携帯）”の割合も高くなる傾向が見られる。

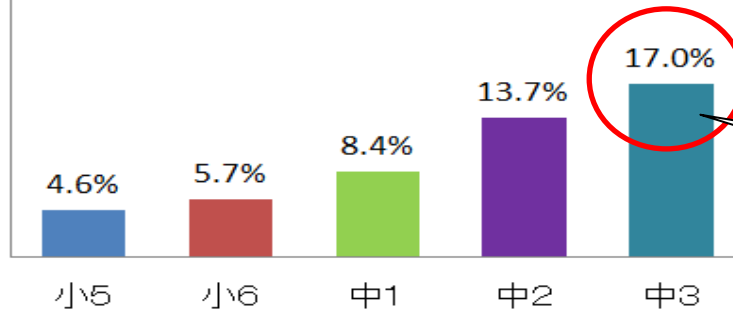
携帯電話・スマホの所持・非所持率（問 42 の設問より作成）



LINE、カカオトークなどの無料通信アプリを1日どのくらい使っていますか（1時間以上）。（問 41）



勉強中に、携帯電話・スマホなどでメールやメッセージのやりとりをする児童生徒の割合（問 42 の設問より作成）



H27 は H26 より使用時間が全体的に減少してきています。携帯・スマホの使用時間が増えると、学力に悪影響を与えることが分かっています。（平成 26 年度「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクト）

勉強中にメールやメッセージのやりとりをしている中学 3 年生が 17.0%（1400 人以上）います。

## 改善のポイント

携帯・スマホが及ぼす影響や、使用するとき約束を決めておくことの大切さを理解させましょう。

### □指導改善の方策

#### ○たく生きの授業実践

たく生き（たくましく生きる力育成プログラム）の授業プラン「ゲーム・スマホ・携帯と上手に付き合っていこう」の実践を行っていく。スマホを1時間以上使用すると学力が下がる結果（平成 26 年度調査）が出ていることに気付かせ、スマホや携帯との付き合い方について児童生徒に考えさせるようにしていく。

#### ○正しい使い方の啓発

スマホや携帯の使い方によっては、いじめや犯罪に巻き込まれる危険性があることを十分に理解させることが大切である。児童生徒だけでなく、保護者も交えたスマホ講座を行ったり、学校便り等で各家庭にスマホの影響について知らせたりする。

### ☆ご家庭では☆

携帯・スマホを使用する際に、ご家庭で以下のような約束事を決めてください。

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 約束事例) ・ 1 日 1 時間以上使用しない | ・ 部屋に携帯を持ち込まない     |
| ・ 勉強中や食事中など不必要なときは電源を切る | ・ 充電器を親があずかる       |
| ・ 勉強中など不必要なときは親にあずける    | ・ 夜 9 時以降は親にあずける 等 |
- まずは、保護者の方がのぞましい使い方の手本を示しましょう。

### ※仙台市生活・学習状況調査

- 児童生徒の生活習慣や学習状況を調査・分析するため、小学校 2 年生以上を対象に、平成 22 年度から実施。
- 昨年度から、インターネット接続機器やスマートフォン、無料通信アプリの利用状況を詳しく調査するため、項目を追加して実施。
- 今後、本調査結果をもとに改善のための手立てを学校や保護者に知らせ、協力・連携して改善を図る。